

研究集録

令和4年度 No.56



宮崎県学校教育研究会
音楽部会

はじめに

本年度も研究収録第56号が出来上がりました。新型コロナウイルス感染症流行の中、各地区の状況に応じて、児童生徒の音楽大会、教師力を高めるための授業研究会や指導者講習会等多くの事業に取り組んでいただき、本県の音楽教育の充実、発展に貢献していただいていますことに厚くお礼申し上げます。報告内容からも分かるように、各地区ならではの特色が出ており、大変参考となるものです。ぜひご覧いただき、活用いただければ幸いです。また、「県版ノート」「県版合唱曲集」につきましては、県内多くの小中学校で採用いただき、先生方のご指導の一助として活用されていることに厚くお礼申し上げます。特に、次年度の「県版中学校ノート」は県内の先生方のご意見を生かして改訂し、これまで以上に、日々の授業に役立ただけの内容と様式になっております。今後とも、変わらぬ採用をお願いしたいと思います。

本研究会では、これまでの研究の成果をしっかりと引き継ぎ、各種の事業を展開してきました。本年度は、第63回九州音楽教育大会宮崎大会並びに第43回宮崎県音楽教育研究大会宮崎地区大会を県内の先生方のご協力を得て、対面とオンラインのハイブリッドで開催し、盛会に終わることができました。ここに改めてお礼を申し上げます。大会主題を「つながる 深まる 広がる そして拓ける未来 ～感性を育む音楽の学びを通して～」に設定し、感性を豊かに働かせながら、変わりゆく社会に主体的に関わり、どのようによりよい未来を創っていくのか、どのように社会や人生をより良いものにすべきか、その目的や方法を自ら考え、挑戦し、可能性を見出していく力を育む音楽教育の在り方の究明を目指し、研究を深め、多くの成果を得ることができました。そして、研究を進める中で多くの先生方が議論を交わし、共に考えたことを通して、音楽科の先生方の絆が深まったことが一番の成果であったとも思います。

最後になりますが、本研究会の活動につきまして、宮崎県教育委員会をはじめとして、市町村教育委員会、宮崎県校長会、その他多くの関係機関から多大なるご支援、ご協力並びにご指導をいただいていますことに対しまして、心より感謝申し上げますとともに、今後とも、本研究会の研究推進に対しまして、ご指導、ご鞭撻賜りますことをお願い申し上げます、はじめのあいさつとさせていただきます。

令和5年3月吉日

宮崎県音楽教育研究会
会 長 橋口 康明

《 目 次 》

○ はじめに（会長あいさつ）	
○ 令和4年度地区会長・理事等名簿	1
○ 令和4年度宮崎県音楽教育研究会事業報告	2
○ 各地区研究報告	
・宮崎市	3
・東諸県	5
・南那珂	7
・都北	9
・西諸県	11
・西都	13
・東児湯	15
・日向	17
・延岡	19
・西臼杵	21
○ 指導案形式	
・小学校	23
・中学校	25
○ 宮崎県音楽教育研究会本部役員名簿	27
○ 宮崎県音楽教育研究会会則	28
○ 第63回九州音楽教育研究大会 宮崎大会 研究授業部会報告	
・小学校部会	
・中学校部会	

令和4年度 地区会長・理事長

役職名		氏名	勤務校	電話番号	大会
宮崎市	会長	橋口 康明	宮崎市立生目台中学校	0985-54-6000	R4 2022 九州大会
	副会長	岩永 律子	宮崎市立大淀小学校	0985-51-4362	
	理事長	宮永 典子	宮崎市立宮崎中学校	0985-24-3380	
東諸県	会長	岩切 淳	綾町立綾小学校	0985-77-0009	
	理事長	鳥原 菜穂子	国富町立本庄小学校	0985-75-2553	
南那珂	会長	永山 英應	日南市立南郷中学校	0987-64-0223	R10 2028
	理事長	川越 直美	日南市立油津中学校	0987-23-1149	
都北	会長	瀬戸山 由香里	都城市立安久小学校	0986-39-0704	R12 2030
	理事長	梶原 美紀	都城市立五十市小学校	0986-22-0476	
西諸県	会長	谷之木 智子	高原町立後川内小学校	0984-42-1081	R14 2032
	理事長	櫻井 和子	小林市立細野中学校	0984-23-3611	
西都	会長	金丸 昭	西都市立茶臼原小学校	0983-43-3217	R1 2019
	理事長	後藤 三紗子	西都市立三納小中学校	0983-45-1234	
東児湯	会長	川野 敏広	川南町立通山小学校	0983-27-0847	
	理事長	桑引 悠成	都農町立都農中学校	0983-25-0046	
日向	会長	原口 靖	日向市立財光寺小学校	0982-54-2825	R6 2024
	理事長	河野 朝子	日向市立平岩小中学校	0982-57-1555	
延岡	会長	石川 優子	延岡市立旭中学校	0982-33-4543	R8 2026
	理事長	中本 和宏	延岡市立土々呂中学校	0982-37-0073	
西臼杵	会長	伊藤 寿朗	五ヶ瀬町立上組小学校	0982-82-0212	
	理事長	矢野 翔太	日之影町立日之影中学校	0982-87-2839	

事業実績報告書

事業内容の概要			
月日	場所	実施内容	参加者
R4. 5.27	オンライン 開催	<役員総会> 令和3年度 事業報告・反省・決算承認 令和4年度 役員選出・事業計画・予算承認	各地区 会長 理事長
R4. 8.5	第54回 夏季音楽 指導者講習会	小学校：創作『誰にでもできる音楽づくり』 講師 坪能 由紀子 氏（前開智国際大学教授） 中学校対象：表現『能の謡曲「敦盛」を謡おう』 講師 久保 誠一郎 氏（観世流能楽師）	県下 中学校 音楽担当者
R4. 11.1.2	山口市 市民会館等	<全日本音楽教育研究会全国大会山口大会> 公開授業・研究協議、ワークショップ、レセプション、研究概要、指導講評、記念講演、記念演奏	県音研役員 等
R4. 10.8	延岡城址二 の丸広場	<第25回のべおか天下ー薪能 観覧補助> チケット半額を補助	県下中学校 音楽担当者
R4. 11.11	メディキット 県民文化 センター等	<第63回九州音楽教育研究大会宮崎大会第1部> 公開授業（撮影）、記念講演 <第2部オンデマンド配信> 11月24日～12月1日	県下 中学校音楽 担当者他
R4. 12.2	オンライン 開催	<第63回九州音楽教育研究大会宮崎大会第3部> 研究協議、指導講評	
R5. 3.2	新富町文化 会館	<令和4年度中学校授業検討会（県版ノート）> 使用実態のアンケート報告、ノートの改良点について、年間指導計画・指導略案・ワークシートの記入例等別冊資料の検討	県下 中学校音楽 担当者
<令和4年度第63回九州音楽教育研究大会宮崎大会に向けて>			
R4. 8.17	宮崎市民文 化ホール	○研修（講義）「新学習指導要領の趣旨に基づく題材構想と学習評価」講師 河合 紳和 氏 （文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官）	九音研宮崎 大会役員
年間を 通して	宮崎市立生 目台中学 校、オンラ イン等	○実務委員会 ○実行委員会 ○運営委員会 ○授業研究会 ○部会別協議会 大会概要説明、大会主題、日程、組織、予算案、年間計画、大会運営、公開授業の検討等	九音研宮崎 大会役員
<研究成果・刊行物>			
○研究集録No. 56の発行（各地区の取組、指導案形式等を掲載） ○宮崎県版音楽ノート、年間指導計画・指導略案集（中学校） ○合唱曲集「コーラスフェスティバル」宮崎県版（中学校） ○宮崎県音楽教育研究会HP（ http://cms.miyazaki-c.ed.jp/ssc031/htdocs/ ）			

宮崎市地区

研究主題 「つながる 深まる 広がる そして拓ける未来」

～ 感性を育む音楽の学びを通して ～

小学校部会長	宮崎市立大淀小学校	岩永 律子
理事長	宮崎市立赤江小学校	長沼 康孝
中学校部会長	宮崎市立生目台中学校	橋口 康明
理事長	宮崎市立宮崎中学校	宮永 典子

1 主題設定の理由

情報化やグローバル化といった社会的変化が加速度的に進んでおり、数年後の未来ですら予測することが困難な時代になっている。それに加え、新型コロナウイルスの感染拡大などでさらに先行き不透明な世の中である。これからの社会を生きる全ての子どもたちにとっての芸術教育の意義は、実体験を通じて醸成される豊かな感性や多くのアイデアを生み出す思考の流暢性、感性や知性に基づく独創性と対話を通じてさらに世界を広げる創造力、苦心してモノを作り上げる力を身に付けさせることだとされている。児童生徒が試行錯誤しながら、つながる、深まる、広がるの3つの学びの姿が見られるような音楽科の授業を積み重ねていくことにより、豊かな感性が醸成され、社会の変化に主体的に関わって未来を切り拓いていこうとする児童生徒の育成につながっていくのではないかと考え、この主題を設定した。

2 事業内容

月	内容	会場
5	理事会・主任会	生目台中学校
8	夏季指導者講習会 (第2回授業研究会)	清武文化会館
11	音楽大会(中学校の部)	清武文化会館

11	宮崎県音楽教育研究大会 宮崎地区大会	メディキット県民文化センター、市内各学校
12	九州音楽教育研究大会 宮崎大会	Zoomによる開催
2	理事会・主任会	Zoomによるオンライン会議

※この他、九音研に向けての授業研究会は随時行われています。

3 研究の実際

(1) 宮崎市小・中学校音楽大会

○小学校の部

12月 7日(水)

12月 8日(木)

12月 9日(金)

⇒新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

○中学校の部

11月 1日(火)

・参加校29校

・新型コロナウイルス感染対策として全体を4ブロックに分け、入れ替えをして実施した。保護者の入場は中止した。

(2) 授業研究会

【小学校】

授業者	授業校	実施日
岡崎朱美教諭	大淀小学校	7月12日
わかりやすい板書の仕方やタブレットの効果的な活用方法を改めて考え直すいい契機となった。		
須志田直美教諭	加納小学校	7月14日
声のまねっこをすることの確認やグループの作り方、お面や場の設定などを考える契機となった。		
清水彩花教諭	本郷小学校	11月11日
九音研の研究授業（内容等は大会記録を参照）		
田中恵子教諭	学園木花台小学校	11月11日
九音研の研究授業（内容等は大会記録を参照）		
竹内美貴教諭	附属小学校	11月11日
九音研の研究授業（内容等は大会記録を参照）		

【中学校】

授業者	授業校	実施日
藤原純子教諭	高岡中学校	9月16日
生徒の意見のまとめ方や板書の効果的な利用など、参考になる点がたくさんあった。		
深江香織教諭	本郷中学校	10月3日
ほぼ本番通りの流し方で行ったが、生徒の話し合いをさらにスムーズに進めるためにマニュアルが必要であることなどの改善点がみつかった。		
永田千代子教諭	檜中学校	10月4日
綿密な打ち合わせをした結果、本番の授業がよりイメージしやすくなった。		
米良香織教諭	生目中学校	11月11日
九音研の研究授業（内容等は大会記録を参照）		
酒井 康教諭	生目台中学校	11月11日
九音研の研究授業（内容等は大会記録を参照）		

4 研究の成果と課題

- (1) 音楽大会については、小学校の部は、例年使用している広い会場が工事のため使えなかったため、客席や

ステージのキャパシティ、動線の確保が困難であった。また、ステージ上に上がる人数が多いこと楽器を共有することなどの理由で、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から5月の主任会で中止を決定した。中学校の部は学級ごとの発表になること合唱の発表であることなどから、感染対策を徹底しながら実施した。初めての場所であったが、先生方の協力によりスムーズな運営ができた。様々な行事が中止や縮小を余儀なくされる中、生徒が輝ける場をつくることのできたことはよかったと思う。

- (2) 九音研の授業に向け、複数回にわたり充実した授業研究会を実施することができた。その中で様々な改善を重ねながら、九音研大会の研究授業を終えることができよかったと思う。授業の内容については、参観してくださった先生方や指導助言者の先生方のご意見を参考にしながら今後の授業づくりに取り組んでいきたいと思う。今回の研究大会を通して何よりもよかったことは、すべての先生方がそれぞれの関わり方で授業づくりに協力していただいたこと、そしてそれをきっかけに横のつながりが強くなったことである。やはり授業研究会を継続してやっていくことの必要性を強く感じた。コロナ等の影響はこれからも残るかもしれないが、今回の経験を活かし、可能な形を模索しながら、継続的に実施していきたい。

研究主題「つながる 深まる 広がる そして拓ける未来

～感性を育む音楽の学びを通して～

会 長 綾町立綾小学校 岩切 淳
理事長 国富町立本庄小学校 鳥原奈緒子

1 主題設定の理由

本県では、現代社会の姿や課題、学習指導要領の改訂のねらいを踏まえ、音楽科で身に付けさせることが可能な力を、「感性を豊かに働かせながら、変わりゆく社会に主体的に関わり、どのようによりよい未来を創っていくのか、どのように社会や人生をより良いものにするべきか、その目的や方法を自ら考え、挑戦し、可能性を見出していく力」と考えている。今年度、本地区は、九州音楽教育研究大会の開催地区であることから、学習指導要領に述べられている感性「音や音楽のよさや美しさを価値あるものとして感じる時の心の働きで、人間にとって意味あるもののこと」を育むために

- ① 音や音楽と、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などとの関わりを考えること
 - ② 「音楽の見方・考え方」を働かせることによって音楽科の学習を成立させ、その学習を積み重ねること
- の2点に着眼し、【感性を働かせた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善はどうあればよいか】という研究テーマを掲げて、研究を進めることにした。

2 事業内容

月	内 容	会 場
5	地区主任会	生目台中学校
7	授業研究会(小学校)	本庄小学校
8	夏季指導者講習会	清武文化会館
8 ～ 10	授業研究会(中学校)	木脇中学校
2	地区主任会	綾小学校

3 研究の実際

(1) 研修会

期 日	令和4年8月5日(金)
場 所	清武文化会館
講 師	坪能由紀子氏
及び	(小学校創作の授業づくり)
内 容	久保誠一郎氏 (能の謡曲の実技研修)

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2年ぶりに県外より講師を招聘しての実技研修会が行われ、地区として参加することができた。現行の学習指導要領の実現を目指した内容、改訂された教科書の教材を選択しての実技研修で、すぐに日々の授業で実践できることが多く含まれており、参考になった。

(2) 授業研究会

【小学校】

期 日	令和4年7月14日(木)
会 場	国富町立本庄小学校
授業者	鳥原 奈緒子 教諭
内 容	第4学年表現(音楽づくり)

- ① 題材 「森の音楽をつくろう」
 - ② 教材 児童の創作作品
 - ③ 第2時(全4時間)
- 九州音楽教育研究大会の第4学年のプレ授業として大会の指導案をもとに検証授業を実施した。授業のめあてと選択している学習指導要領の指導事項の整合性について、児童が理解し自分のイメージを音楽にしていく際の工夫の手掛かりとする音楽の要素についてなど、具体的な検討を行うことができた。

【中学校Ⅰ】

期 日	令和4年8月30日(火) 9月8日(木) 9月12日(月) 9月14日(水)
会 場	国富町立木脇中学校
授業者	金本 志秀 指導教諭
内 容	第1学年 表現(創作)

- ① 題材 「音のつながり方の特徴を理解し、かるたの句の言葉のリズムや抑揚に合わせて旋律をつくろう。」
- ② 教材 「生目かるた」の句による生徒創作作品
- ③ 全4時間
- 九州音楽教育大会の第1学年表現(創作)の授業試案として、大会の指導案に沿って第1時から第4時までの題材の全授業を通じた授業研究会を行った。題材を通して授業を見ることで、題材のゴールイメージを把握することができ、使用するワークシートや生徒に提示する創作の条件がゴールに向かっていくかの確認ができた。また、各時間のめあての検討や、授業のよりどころとする音楽の要素を、実際に生徒が創作活動をしている時に働かせることができるのかなどの吟味を具体的にを行うことができた。

【中学校Ⅱ】

期 日	令和4年9月2日(金) 9月7日(水) 9月13日(火) 9月27日(火)
会 場	国富町立木脇中学校
授業者	金本 志秀 指導教諭
内 容	第3学年 鑑賞

- ① 題材 「我が国の伝統音楽の様々な特徴を捉えながら、そのよさを味わおう」

- ② 教材 歌舞伎「勸進帳」
能 「安宅」「敦盛」
文楽 「鳴響安宅新関」
「新版歌祭文」

- ③ 全4時間
- 九州音楽教育大会の第2学年鑑賞の授業試案として、大会の指導案に沿って第1時から第4時までの題材の全授業を通じた授業研究会を行った。題材の全授業の参観により、歴史や社会と音楽が関わる授業のゴールのイメージが把握できた。また、題材全体のねらいが明確になり、ゴールに向かう流れの中での1時間ごとの授業のめあてや活動について具体的に検討することができた。九州大会の授業は2年生だったが、試案授業から、毎時間のめあての段階、生徒の思考を深めるための発問の在り方や鑑賞のタイミング、板書方法、個と班活動、全体確認の場面の効果的な設定についてなどの発達段階を加味しながらの具体的な検討ができ、実践の幅が広がった。

4 研究の成果

- 小学校、中学校ともに、九州音楽教育研究大会の開催地区として研究に積極的に関わることができた。
- 研究授業の実施は、大会の本番の授業の研究に示唆を与えるだけではなく、自分達の日常の授業について、新たなチャレンジや再考などの良い機会となった

5 研究の課題

- 九州大会や県大会の研究授業が行われない年度でも、お互いに授業を参観し合う、みんなで教材の研究を進めるなど、情報交換の機会が設定できるとよい。
- 新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、令和元年度を最後に東諸県郡の音楽大会は実施していない。表現することに重要な意味をもつ音楽科として、地区としてどのような在り方が望ましいのか、可能なのかを検討していく必要がある。

研究主題「つながる 深まる 広がる そして拓ける未来

～感性を育む音楽の学びを通して～

会 長 日南市立南郷中学校 永山 英應

理事長 日南市立油津中学校 川越 直美

1 主題設定の理由

本地区は、日南市、串間市からなる小中一貫校を含む35の小・中学校で構成されている。児童生徒の減少により小規模校が多く、小学校音楽専科の教員が少ないが、中学校との連携を図りながら指導力向上を目指している。

本研究会では、「つながる 深まる 広がる」という学びの姿が見られるような音楽科の授業を積み重ねていくことにより、豊かな感性が醸成され、変わりゆく社会に主体的に関わり、未来を創造するために、自ら考え挑戦し、可能性を見出す力が育成されると考え、本主題を設定した。

2 事業内容

月	内 容	会 場
5	第1回南那珂地区小・中学校教科等研究会 (中止)	南郷ハートフルセンター
12	第2回南那珂地区小・中学校教科等研究会 実技講習会	串間市立串間中学校
11	日南市小・中学校音楽大会 串間市小・中学校音楽会	南郷ハートフルセンター 串間市文化会館
2	第3回南那珂地区小・中学校教科等研究会	南郷ハートフルセンター

3 研究の実際

(1) 実技講習会

期日	令和4年12月5日(月)
会場	串間市立串間中学校
内容	「学級における合唱指導のあり方」
講師	綾町立綾小学校 黒木順子 指導教諭

① 講義

「学校教育における合唱の意義」について、実演や事例を通して共通理解することができた。

② 実技演習

- ・「移動ド唱法」の利点を生かした指導
- ・ハンドサインの活用の仕方
- ・拍を共有するための指導
- ・声部の役割を理解させる指導
- ・縦と横の関係を意識した合唱練習
- ・言葉を生かしたフレーズの歌い方
- ・音楽の流れを大切にしたい歌い方
- ・美しい響きを目指した発声
- ・感性を引き出す指揮

③ 受講者の感想から

- ・ 体験的な活動がたくさんあり、楽しみながら研修を受けることができた。
- ・ 即実践できる指導法だったので、早速授業に取り入れていきたい。
- ・ 卒業式にむけての合唱指導もあるので、とても参考になった。
- ・ 便利な機材や使い方の紹介もあり、とても参考になった。
- ・ 不協和音の美しさに触れ、声のアンサンブルの美しさを肌で感じることができ、是非この感覚を児童生徒にも味わわせたいと思った。

- ・ 音楽を作ることは、「聴く」力を身につけることが大切だと実感した。
- ・ 教師の声の大きさを児童生徒の声の大きさにそろえることで、聴き合う雰囲気や美しい音を奏でる雰囲気を作り出すことができるということがわかった。
- ・ 実技研後、ハンドサインを授業で活用してみたが、児童は楽しみながら階名を覚えることができていた。

(2) 第14回日南市小・中学校音楽大会

期日	令和4年度11月9日(水)
会場	南郷ハートフルセンター
内容	小・中学生による合唱、合奏

二年振りに開催した昨年度に続き、本年度も十分な感染症予防対策を講じながら実施した。市内19校の小・中学校が参加し、合唱や器楽合奏に加えて、箏の合奏やボディーパーカッションを取り入れるなど、コロナ禍でも練習ができる工夫が見られ、バラエティーに富んだ発表内容であった。

会場の密を避けるため、本年度も児童生徒のみの鑑賞としたが、小学生、中学生が一堂に会しお互いの発表を聴き合うことは、大きな刺激となり、また励みとなった。また、後日渡される講評も、児童生徒に達成感や充実感を与え、この大会が教育的な意義をもつ貴重な場となっている。

運営面では、小規模校が多く運営に当たる職員が不足していること、児童生徒輸送費の高騰により予算がひっ迫していること、小・中学校別に分けた二部制の導入など、今後検討する必要がある。

(3) 第48回串間市小中学校音楽会

期日	令和4年11月11日(金)
会場	串間市文化会館
内容	小・中学生による合唱、合奏

昨年度は、感染症予防対策を徹底し、

演奏時間を短縮するなどの工夫をして開催することができた。今年度も、状況的には厳しく、全体合唱は出来なかったが、昨年度のノウハウを生かしながら、串間市の全小・中学校が参加し開催することが出来た。

各学校工夫を凝らした内容で、例年と同等の演奏レベルを維持しつつ、うまくまとめていた。コロナ禍で開催できたということは、大変意義深かった。

また、昨年は、海上自衛隊佐世保音楽隊を招いた鑑賞会を行っていたが、本年度は、日程調整が可能な団体が見つからず、鑑賞会は見送ることとなった。本格的な演奏を聴く機会の少ない串間市の児童生徒にとって残念なことであった。

4 研究の成果

(1) 実技講習会では、事例や実技を通して、合唱活動の意義を、参加者全員が実感できる講習会となった。また、指導する際に、どこに視点をおいて指導するのかを明確にし、児童生徒と教師が思いを共有しながら表現を広げていくことが大切であることを確認することができた。

(2) 各市で行った音楽大会では、日頃の授業の成果を十分発揮することができ、お互いの演奏を聴き合うことで、音楽活動への関心や意欲を高めることができた。

また、選曲や楽器の使い方、コロナ禍における練習の進め方について、音楽担当者間の情報交換ができたことも意義があった。

5 今後の課題

(1) ICTを活用した授業づくりや効果的な合唱、合奏の練習方法についての研修を行う必要がある。

(2) 音楽大会は、予算編成や運営面において、児童生徒や音楽専科の減少を視野に入れて、今後どのように継続していくかを考えていく必要がある。

研究主題「つながる 深まる 広がる そして拓ける未来

～感性を育む音楽の学びを通して～

会 長 都城市立安久小学校 瀬戸山 由香里
 理事長 都城市立五十市小学校 梶原 美紀

1 主題設定の理由

本地区は、都城市と三股町の合同部会であり、小学校42校、中学校20校で構成されている。組織は会長、理事長を中心にまとまっており、諸事業や研修会を定期的に行っている。また、小・中学校の校種間連携がとれているので、児童生徒の連続した学びが可能となっている。授業研究会は毎年行い、小・中学校が交代で研究授業を提案し協議を深めている。ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響で、音楽活動に制限がかかり、思うように学習できないことが多かったが、このような中でも、音楽を楽しみ、他とつながり、深く音楽について理解し、思いを広げることのできる児童・生徒を育てたい。

そして、そのためにどんな活動ができるのかを研究したいと考え、本主題を設定した。

2 事業内容

月	内 容	会 場
5	第1回理事会 活動内容確認 役員選出	安久小学校
7	事業部会（小学校） 音楽大会について	安久小学校
8	研究部会 担当者会	中止
9	事業部会（小・中学校） 音楽大会について	安久小学校
10	都北小中学校音楽大会 （中学校の部）	都城市 総合文化ホール
11	都北小中学校音楽大会 （小学校の部）	都城市 総合文化ホール
	授業研究会	西小学校
2	会計監査	紙面
	第2回理事会 各部の反省 事業報告 会計報告	安久小学校

3 研究の実際

(1) 夏期研修会

本年度は新型コロナウイルス感染症流行のため中止した。

(2) 都北小中学校音楽大会

小学校はコロナ禍で、3年ぶりの開催となった。最大50名の団体毎による合唱のみの発表で、以前とはかなり違う形での発表であったが、各校の工夫が見られた。中学校は昨年同様の開催であったが、今年度は職員合唱を実施することができた。また、小中学校共に、無観客での開催、座席や発表前後の移動の工夫、消毒の徹底など新型コロナウイルス感染症対策を講じての開催となった。音楽科の授業もままならない中、舞台上で演奏できたことが、児童生徒にとって素晴らしい経験となった。

(3) 授業研究会

期 日	令和4年11月25日（金）
会 場	都城市立西小学校
内 容	第5学年 表現（器楽）
授業者	片野 和紀

① 題材

和音の移り変わりを感じ取ろう

② 教材 「静かにねむれ」

「とんび」

「こげよマイケル」

③ 本時の目標

和音の響きの移り変わりを感じながら演奏する。

④ 学習活動の流れ

- 1 前時を振り返る。
- 2 「とんび」の旋律のみを聴く。
- 3 本時のめあてを確認する。
- 4 「とんび」の和音を演奏する。
 - タブレットで旋律を聴きながらワークシートに自分が考えた和音を書く。
 - タブレットで旋律を聴きながら個人で練習をする。
 - グループに分かれて練習する。
- 5 グループごとに和音を決めて演奏を発表し、お互いの演奏を聴く。
- 6 本時を振り返り、次時の予告を聞く。

⑤ 授業研究会 〈協議題〉

「コロナ禍の音楽授業の工夫実践について」

○ 授業者反省（抜粋）

コロナ禍でもできる活動を行いたいと思い、音楽づくりを取り入れた。また、児童の活躍の場を作りたいという思いがあり本時の授業を構成した。初めは、「とんび」の1～8小節まで和音を考える予定であったが、時間の関係もあり7・8小節のみにした。元々は、教科書に記載してある和音を演奏させようと思っていたが、和音の移り変わりを気付かせるという点では和音を考えさせた方がいいのではないかと思い、和音づくりの活動を行った。和音づくりの発表の内容はほとんど予想通りであった。IV→V $\bar{7}$ →Iの気付きがあったグループは狙い以上であった。



○ 研究協議

〈コロナ禍の音楽活動の取り組みについて〉

- ・ 体育館（広い場所）での授業
- ・ 子ども同士の距離をとる
- ・ 向き合わないよう場を設定
- ・ フェイスガード、合唱用マスクの使用
- ・ ミニキーボードの使用
- ・ 鍵盤ハーモニカ、リコーダーの指練習
- ・ リコーダーの吹き口にホース
- ・ 教科書以外の曲の鑑賞
- ・ ミュージックラボ（ICT）の活用
- ・ バーチャルピアノ（ICT）の活用
- ・ ロイロノート（ICT）の活用

〈指導助言〉 安久小学校 瀬戸山由香里

今回の題材で扱う共通事項は「旋律」「音の重なり」「和音の響き」だった。教師が曲の特徴を把握して、何が必要かを選択して取り扱うことが大事である。なお、小学校と中学校では「音楽を形づくっている要素」が少し違うので確認しておくといよい。

また、個々の活動の中では気付かないようなことを、協働の活動の中で気付き、考えが深まっていっている姿が見られた。高校では音楽が選択授業になるため、小学校・中学校で協働して音楽活動をする場面を取り入れること大事である。

4 研究の成果

コロナ禍での音楽科授業の工夫として場の設定、グループの作り方、教具の工夫、ICT活用などが定着しつつある。今回の研究授業を通し、教師が十分に教材研究し子どもたちの学びに必要なことを選択しておくこと、子ども同士での学びの場を確保することなど授業の組み立て方の基本に立ち返ることができた。

5 今後の課題

新型コロナウイルス感染症流行のため、音楽大会・授業研究会などへの参加者が少なかった。まずは音楽主任が積極的に参加できるような会の在り方について考えたい。その上で、感性を育む音楽の学びについて研究を深めたい。

研究主題 「つながる 深まる 広がる そして拓ける未来」

～感性を育む音楽の学びを通して～

会 長 高原町立後川内小学校 谷之木智子

理事長 小林市立細野中学校 櫻井 和子

1 主題設定の理由

本地区は、小学校21校、中学校15校で構成されている。県音研の研究主題「つながる 深まる 広がる そして拓ける未来」のもと、小・中学校の連携を図りながら研究に取り組んできた。今年度は、GIGAスクール構想に伴って整備されたタブレットの授業での活用方法について研究を進めるとともに、コロナ禍における音楽の授業や、発表についての工夫を取り入れた音楽大会の在り方などについて研究・実践を図った。

2 事業内容

月	内容	会場
5	理事会 主任会準備	細野中学校
7	音楽主任会総会 役員改選 事業計画 第1回研究会 研究発表 野尻中 池田香代子	小林中央公民館
8	理事会 音楽大会計画	細野中学校
10	理事会 音楽大会計画 音楽大会準備	細野中学校
11	音楽主任会 前日準備 地区音楽大会	小林市文化会館
2	理事会 R4事業反省 R5事業計画	細野中学校

3 研究の実際

(1) 第1回研究会

日 時 7月 5日 (火)

会 場 小林中央公民館

研究発表

野尻中学校 池田香代子

内 容 R3授業研究会 (中止)

領域：創作

題材：音のつながり方の特徴を理解してカルタの句のイメージに合わせて、句に旋律をつけよう。

Chrome book アプリ「バーチャルピアノ」を活用して作られた生徒の作品が紹介された。その後、小中グループごとに各学校の音楽の授業の取組について意見交換の時間を設定した。

(2) 第75回西諸県地区小中学校音楽大会

日 時 11月17日 (木) 8:45～15:45

会 場 小林市文化会館

参加校 小学校17校 中学校14校

本地区は、午前：小学校の部、午後：中学校の部とし、小中学校の音楽主任が協力して音楽大会を運営している。児童生徒数の減少により、中学校の部においては、全校生徒や学年での発表が増えてきており、学級単独での参加が減少している傾向にある。

各校それぞれに工夫を凝らした発表が続き、鑑賞する児童・生徒、運営する音楽主任にとって、貴重な学習の場となった。ホールで発表した達成感に加え、当日各校に渡される講評用紙（教育事務所の指導主事・音楽部会会長が記入）も、児童・生徒の大きな励みとなっている。

コロナ禍において、3回目のブロック制、無観客、オンライン配信での開催となった。小学校は例年の19校に対し、令和2年度は10校、令和3年度は13校、本年度は17校の参加、中学校は毎回例年と変わらず14校の参加であった。

7月5日の主任会総会において、音楽大会の説明時に、次のことについて確認した。

【感染防止対策】

(1) 大会までに

名簿提出（参加児童・生徒、引率）

(2) 大会当日

○ 演奏会の形態

ブロック毎の総入れ替え

○ 各学校にて

参加する児童・生徒、引率者の検温

○ 会館に入る前

各校での手指消毒

○ 会館に入ってから

① 演奏時以外は、マスク着用

② 受付にて

健康観察確認書の提出

③ 客席到着時

エントランスで静かに待機

待機場所の指定と誘導

④ 客席からステージに上がる時

ステージに置いてある楽器を使用する

児童・生徒、職員は再度手指消毒

⑤ トイレ使用時

トイレに消毒液を設置

また、ブロック別の会館滞在時間を考慮した市送迎バスの運行計画、事前に各校の動線（待機場所・座席表・ホール出入り・ステージ出入り）を配付した。

(3) 第2回研究会 授業研究会

今年度は、九州音楽教育研究大会宮崎大会に参加することを授業研究会とした。総会で是非にと参加を呼びかけた。

4 研究の成果と課題

(1) 第1回研究会

Chrome book アプリ「バーチャルピアノ」を活用して創作している生徒の様子や作品が紹介され、「自分もやってみよう」との声が多く聞かれた。

意見交換では、各校の実際の取組を出し合い悩みを共有する充実した時間となった。総会後のため時間確保が難しいが、今後は授業や音楽大会の発表に即生かせる研修を計画したい。打楽器の奏法や指揮法等検討中である。

(2) 第75回西諸県地区小中学校音楽大会

各担当から出された反省点を改善し、国や県の動向等を踏まえ、感染症防止対策も緩和したことで、より充実したスムーズな運営がなされた。

無観客・ブロック別の発表であったが、オンラインでの中継配信も行うことで、児童・生徒の貴重な発表の場となり、実施に関して学校関係者、保護者からも感謝の声が多く届いた。それまでの練習の過程を通して、学級や学年、さらには学校経営にまで大きくプラスの影響を与えることにつながったことは大きな成果であった。また児童生徒に留まらず指導者にとっても他校の演奏を鑑賞することの大切さ・必要性を感じるよい機会となった。市バスの運行が難しく、大会の運営を大きく左右しているのが現状である。今後は、観客やブロック制に係る検討が必要である。

(3) 第2回研究会 授業研究会

本年度は九州音楽教育研究大会宮崎大会に参加し、勉強させていただいた。来年度は授業研究会を実施し、小中学校の連携を図りながら、地区全体の授業力向上に努めていきたい。

研究主題「つながる 深まる 広がる そして拓ける未来

～感性を育む音楽の学びを通して～

会 長 西都市立茶臼原小学校 金丸 昭

理事長 西都市立三納中学校 後藤三紗子

1 主題設定の理由

西都市は、小中一貫校を含め、14の小中学校で構成されている。生徒の減少により、令和8年度には中学校が統合される予定である。また、小学校も複式で授業を行っているところがあり、そうした実態が音楽大会への参加や日ごろの授業での困難さにつながっている実態がある。

本研究部会では、県音研の研究主題のもと、新しいものを自ら追い求めていく人材を育成するために、本題材を設定し、研究を進めてきた。

2 事業内容

月	内 容	会 場
6	第1回音楽研究部会 ・役員選出・事業計画 ・研究主題の確認	茶臼原小学校
7	宮崎県吹奏楽コンクール宮崎大会 参加校 妻中	宮崎市民文化ホール
8	音楽研究部会役員会	三納小中学校
	NHK 全国学校音楽コンクール宮崎県大会 参加校 都於郡小	メディキット県民文化センター
11	小中学校音楽大会	中止
12	第2回音楽研究部会 ・ICTを用いた音楽科の授業実践について	妻南小学校

2月	アンケートの実施 ・今年度の取り組みについて ・次年度の取り組みについて ・次年度の音楽大会へ向けて	
----	---	--

3 研究の実際

(1) ICTを用いた音楽科の授業実践について

期 日	令和4年12月1日(金)
会 場	西都市立妻南小学校
講 師	黒木 雄治 教諭 徳原 奈奈 教諭

- ・ Teams の活用
本地区では、Teams、xSync Classroom、ジャストスマイルを活用して学習に取り組んでいる。その中でも今回は、Teams の活用について研修した。
- ・ CHROME MUSIC LAB の活用
Web 上で色音符を入力して楽しみながら作曲に取り組む活動の紹介があった。

市内の音楽主任の連絡手段としての活用を含めて、Teams、CHROME MUSIC LAB の使い方等について研修した。児童生徒への課題提示・配布の方法や、作品を集める方法、児童生徒同士の共有の方法など再確認し学ぶことができた。Web 上での作品作りでは、楽器の演奏をすることなく取り組み

るので、楽器が少ない学校でも取り組みやすく、またリコーダーや鍵盤ハーモニカを使わずに活動できる内容であったため、コロナ禍でも授業で取り入れやすい内容であった。また、実際に児童の作品や活動の様子(録画)を見せていただいたことで、「ICT機器の導入に対するハードルが低くなった。実際に学校で取り組んでみた。」という声も多く聞かれた。

さらに、西都市独自の楽曲のデータを Teams で共有し、実際に活用することができ、市内の音楽主任の連絡手段が広がった。



(2) 小中学校音楽大会

今年度こそは実施をしたいと考え、密を避ける運営の在り方や児童生徒輸送方法などを役員会で検討したが、新型コロナウイルス感染拡大のため、中止した。

(3) 次年度の音楽大会実施に向けて

次年度の開催に向けて、音楽主任だけでなく、多くの先生方のご意見をいただきたく、アンケートでの意見収集を行った。

- ・ 実施について
- ・ 児童生徒の参加形態
- ・ 観客の入場について など

この3年間で、児童生徒の相互の演奏交流ができなかったため、ぜひ行いたいとの声もある一方、感染予防に向けた新しい運営方法を探る必要がある、との声もいただいた。また、演目の制限をかけるかどうかなどについても、ご意見をいただいた。

4 研究の成果

今年度も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、活動に制限がかかることが多かった。音楽大会もやむを得ず中止となったが、先生方のご要望から ICT 機器の活用する方法について研修を行うことができた。今後も様々な場面で活用することができると、実施してよかったとの声が多く、今後には生かせる研修ができた。

音楽大会の実施については、アンケートを実施したことで、コロナ以前の運営方法を見直し、新しい運営方法を探ることが必要であると、改めて実感した。

5 今後の課題

楽器を使うことができなかった3年間は、様々な活動が広がった3年間でもあった。今後は、活動の制限も少なくなっていくことが考えられるため、音楽主任で連絡を取り合いながら、授業づくりの研修を進めていくことが課題である。次年度は新しいアプリの導入が行われるとのことで、ぜひ次年度も ICT の研修も行ってほしいとの声もあった。次年度は、授業研究会の実施などを行いながら、小・中学校の連携を充実させていきたい。

音楽大会の実施については、今年度行ったアンケートのご意見をもとに、次年度の早いうちによりよい運営方法についての検討を重ねていきたい。

研究主題「つながる 深まる 広がる そして拓ける未来」

～感性を育む音楽の学びを通して～

会 長 川南町立通山小学校 川野 敏広
 理事長 都農町立都農中学校 桑引 悠成

1 主題設定の理由

本地区は、県音研の研究主題に基づき、「感性を豊かに働かせながら、変わりゆく社会に主体的に関わり、どのようによりよい未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにすべきか、その目的や方法を自ら考え、挑戦し、可能性を見出していく力」を児童生徒に身に付けさせることを目指し、各学校での研究に取り組んできた。

本研究会では、児童生徒が音や音楽の鳴り響く中でフレキシブルに試行錯誤しながら、音楽活動を積み重ねていくことにより、自己の音楽観を広げ、豊かな感性をもち、拓ける未来へ進んでいく児童生徒を育成することができると考え、本主題を設定した。

2 事業内容

月	内 容
6	東児湯音楽教育研究会 ○ 令和3年度活動・決算報告 ○ 令和4年度役員選出 ○ 令和4年度活動計画・予算案
7	第65回宮崎県吹奏楽コンクール
8	NHK全国学校音楽コンクール
11	九州音楽教育研究大会 宮崎大会
12	東児湯音楽教育研究会 ○ 九州音楽教育研究大会を受けての研究討議 ○ 東児湯小中学校音楽大会の今後のあり方について
2	東児湯音楽教育研究会 ○ 令和4年度活動・決算報告 ○ 令和5年度の活動について

3 研究の実際

(1) 東児湯小中学校音楽大会

令和2年度から、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、実施できず、来年度まで実施を見合わせる予定である。なお、町ごとに実施予定だった音楽大会については、高鍋町のみ開催することができた。来年度以降、新型コロナウイルス感染症の状況を見つつ、合同開催などの形も模索しながら実施していきたい。

(2) 九州音楽教育研究大会を受けての研究討議

九州音楽教育研究大会に各自参加し、それを受けての研修会を後日開催し、東児湯地区としての協議を行った。

① 小学校部会（C鑑賞）

- ◆ 「何を学ぶか」の明確化
 - ・ めあて、まとめの整合性が音楽でも大事である。
 - ・ 児童の課題や困り感を確実に把握し、支援していく必要がある。
 - ・ 板書や掲示物をしっかり行い、既習事項や過去の学習内容に、すぐに戻れるようにしておく必要がある。
 - ・ 音楽の要素を常に掲示しておき児童が常にそれを見て活用できるようにしておくことよい。
- ◆ 「どのように学ぶか」の工夫
 - ・ タブレットで記入したことを、全体で共有することで使用する。ただし、タブレットに記入する時間が長くないようにする。

- ・ 音楽の要素、言葉など、低学年からしっかり積み重ねていくことが大切である。
- ・ 五感を使って、楽しみながら活動させてもよい。
- ◆ 東児湯地区の児童生徒の実態に応じた授業改善
 - ・ 鑑賞の際には、どのような言葉を使って表現させたいのかの教師側の意図も踏まえて、あらかじめキーワードを与えておくのもよい。
 - ・ タブレットの活用法をもっと考えていきたい。
- ◆ その他
 - ・ 音楽大会や卒業式の学校行事等に重きを置き過ぎないように、年間を通して計画的に授業を行っていく必要がある。
 - ・ 楽器の消毒などの大変さがある。

② 中学校部会

- ◆ 「何を学ぶか」の明確化
 - ・ 3つの芸能を同時に学習することは、時間的に難しい。同時に行うのであれば、要素をもっと精選してもよいのではないかと考えられる。
 - ・ 生徒の実態に応じた発問を工夫することにより「何を学ぶか」を明確化する必要がある。
- ◆ 「どのように学ぶか」の工夫
 - ・ 全体で共有、確認した後に、個人思考やペア・グループ活動に移るとよい。
- ◆ その他
 - ・ 生徒が本当に音楽を楽しんでいるかどうか、教師が意識する必要がある。
 - ・ 時間を区切りすぎるのもどうだろうか。
 - ・ ICTの使い方について、本当に必要な場面なのか、その都度検討が必要である。

4 研究の成果

- 全員が九州音楽教育研究大会に参加した上で、後日、東児湯地区独自の研究協議の時間をもつことができたことは有意義であった。
- 研究会の際に、日頃の音楽の授業におけるICTの利活用について情報交換をすることができてよかった。

5 今後の課題

- 小学校専科指導教員の減少を踏まえ、他の地区で実施されている実技講習会を取り入れ、教師一人一人の指導力向上に努めていきたい。
- 新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、以前のような研究授業や実技講習会を実施していきたい。
- ICTの利活用については、本当に必要な場面かどうかを見極めながら、有効に活用していく必要がある。

研究主題「つながる 深まる 広がる そして拓ける未来 ～感性を育む音楽の学びを通して～」

会 長 日向市立財光寺小学校 原口 靖
日向市立大王谷中学校 松下 修士
理事長 日向市立平岩小中学校 河野 朝子

1 主題設定の理由

新型コロナウイルス感染症の拡大により、本地区では昨年度に引き続き、今年度も地区音楽大会の中止を夏季休業前に決定した。また、講習会等の事業の実施も困難な状況にあった。

しかし、授業研究会を小学校、中学校合同で実施して相互で授業を参観し、「音楽に対する豊かな感性を育むとともに、主体的かつ創造的な音楽活動ができる児童・生徒の育成を目指す」ための研究を進めた。

また、このことは本地区の教育目標である「ふるさと日向を愛し、豊かな国際感覚をもち、確かな学力と豊かな心を身につけた、自分に自信と誇りをもって社会に貢献しようとする気概のある子ども」の育成にもつながるものであり、意義があるものと思われ、本主題を設定した。

2 事業内容

月	内 容	会 場
5	第1回音楽科主任会 ・役員選出 ・研究主題について	大王谷コミュニティセンター
7	第1回理事会 ・R4ひまわりフェスティバル開催について ・分担確認 ・県音研総会報告 第2回音楽科主任会 ・中止	日向市教育研究所
12	第3回音楽科主任会 ・今後の予定	日向市教

	<ul style="list-style-type: none"> ・R5ひまわりフェスティバル日程について ・九音研大会（宮崎大会）報告 ・R6県音研大会（日向大会）に向けて 	育研究所
1	第4回音楽科主任会 <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会 ・年間反省 ・研究紀要作成について 	日向市立大王谷中学校

3 研究の実際

(1) 授業研究会

日 時 令和5年1月31日（火）

会 場 日向市立大王谷中学校（音楽室）

内 容 合奏（第9学年）

授業者 本田 佳織 教諭

授業内容

○題材名 箏や箏曲の特徴を感じとって、その魅力を味わおう

○教材 「さくらさくら」日本古謡
「六段の調」八橋検校 作曲

○本時の目標

箏の構造や奏法を理解し、基本的な奏法を身につけ、「さくらさくら」を演奏することができる。



○学習活動の流れ

- 1 タブレットの映像を確認しながら前時の復習をする。
- 2 本時のめあてを確認する。
- 3 模範映像と楽譜を見ながら旋律を確認する。
 - ・糸の名称で「さくらさくら」を歌う。
- 4 「さくらさくら」を練習する。
 - ・グループで、順番に練習をする。
 - ・全員で合奏する。(3回通す)
- 5 本時の学習を振り返る。
 - ・ワークシートに反省を記入する。
- 6 次時の予告を聞く。

○授業者反省

- ・日本の和楽器である箏に対して、生徒が興味をもって取り組めてよかった。
- ・他校に協力してもらい、グループに1つ箏をそろえることができ、直接的に経験する時間を確保することができた。
- ・箏の音の出し方や弾き方が難しく、なかなか音の響きが分からない生徒がいた。
- ・教師が模範演奏をタブレットで流したが課題に対しての改善に繋がらなかった。

○質疑応答

- Q 本時は単元の2時間目だったが、導入の1時間目はどのような状況だったか。
- A 小学校4年生の時に演奏した「ミニ箏」を生かして演奏していた。
- Q グルーピングの意図はあったのか。
- A 事前のレディネスチェックで技能の高い生徒と低い生徒を組み合わせでグルーピングを行った。
- Q 教師の箏の経験はあったのか。
- A 大学の時の4時間の集中講義で経験していた。
- Q 展開の部分で、教師が3回とも(生徒の演奏の様子を巡視せず)生徒と一緒に演奏した意図はなんだったのか。
- A 同じタイミングで演奏させたかった。

○協議

- ・要所所で教師の指示が的確だった。特に、よい音色をだすための右手の使い方の指示がよかった。
- ・タブレットの模範映像はよかったが、生徒目線の映像の撮り方を意識すると、より効果的になるのではないかな。
- ・単元の最後の動画については、成果物という視点だけでなく、単元途中の改善につながる動画としても検討していくとよいのではないかな。



4 研究の成果

- コロナ禍において、感染拡大予防の対策をとりながら、お互いに連携して授業実践を行うことができた。
- 各学校の取組についての情報交換により、タブレットやデジタル教科書等のICT授業のあり方を考えることができ、次年度の研修についても考えを深めることができた。
- 次年度のひまわりフェスティバルや県音研日向大会の確認、来年度の役員についての協議を行ったことにより、次年度へ向けての見通しをもつことができた。

5 今後の課題

- 4年ぶりのひまわりフェスティバルの実施に向け、来年度は早期に協力体制を整え、準備を始める必要がある。
- 令和6年度の県音研日向大会の実施に向け、他地区とも情報交換を図りながら、より一層充実した音楽指導を、小中連携のもとで実践していきたい。

研究主題「つながる 深まる 広がる そして拓ける未来

～感性を育む音楽の学びを通して～

会 長 延岡市立 旭 中学校 校長 石川 優子
 延岡市立熊野江小学校 校長 田中 芳郎
 部 長 延岡市立土々呂中学校 中本 和宏

1 主題設定の理由

本地区は、県音研の研究主題に即し、音楽に対する心情や豊かな感性を育成するとともに、主体的で基礎的な能力及び豊かな情操の育成を目指し、研究を進めている。

そこで、今年度は、延岡市立旭中学校の石川優子校長先生にご教授いただき、「新学習指導要領における指導と評価に関して」という内容で模擬授業形式での研修会、延岡市小中学校音楽祭に向けての話し合いの充実などに努めてきた。このことは、児童生徒の基礎的・基本的な技術や能力を高め、心豊かな児童生徒の育成につながると考え、本主題を設定した。

2 事業内容

月	内容	会場
5	市教研教科代表者会 ・役員選出 ・事業計画作成 ・研究主題と内容の決定	旭中学校
6	市教研第1回音楽部会	旭中学校
10	第1回音楽祭実行委員会	旭中学校
10	市教研第2回音楽部会	社会教育センター
10	第2回音楽祭実行委員会	旭中学校
11	第56回延岡市小中学校音楽祭	延岡総合文化センター

3 研究の実際

(1) 研修会

日時 令和4年6月23日(木)
 講師 延岡市立旭中学校 校長
 石川 優子 先生
 場所 旭中学校 図書館
 内容 「新学習指導要領における指導と評価に関して」

音楽が好きになる要素！音楽の授業の楽しさって何でしょう！音楽の学びを通して、情操を育むためのたくさんの気づきを与えてくださった研修会だった。



音楽科の目標、音楽的な見方・考え方、音楽を形づくっている要素などを丁寧に確認した後、授業を体験した。小学校編では、身近な楽器の音の特徴に気付かせることをねらって、オノマトペで表す活動。中学校編では、提示された一枚の絵画から聴こえてくる音をオノマトペで表し、更にイメージした音を重ねて絵画を音で表す活動。その後、学習評価について、児童生徒の姿や判断のポイントなどを具体的に示していただいた。

(2) 延岡市小中学校音楽祭

日時	令和4年11月18日(金)
参加者	延岡市内の小中学校児童生徒
内容	器楽合奏、合唱、合奏 etc.

本音楽祭は、昨年度まで2年間、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止を余儀なくされた。年度当初から、実施することを前提に協議を重ね、ようやく3年ぶりの開催となった。



参加団体は、全19校(小学校9校、中学校10校)。小学校の発表では、合奏、合唱、リコーダー奏、郷土芸能など、学校の規模や特色を生かした発表が多くみられ、日頃の学習の成果が十分に発揮された。中学校においては、各学校の校内合唱コンクールの優勝学級の参加が多く、堂々と自信に満ち溢れた歌声と表情は、小中学校9年間の歩みを垣間見るような感動を与えてくれた。

入場制限を設けたため、保護者の皆様に鑑賞していただくことはできなかったが、今年度の開催は、次年度につながる希望の一步となった。



4 研究の成果

(1) 第1回研究会では、「何をどのように評価するために授業を構築するのか」ということを念頭に置き、「音楽的な見方・考え方」の働かせ方に迫る方法について考えることができた。小学校での「音や音楽の楽しみ方」という基礎的な学びを元にして、中学校での「生活と結びついた音や音楽」につなげていくために必要な授業の進め方について協議することができた。

(2) 模擬授業を通して小中の音楽主任が交流することにより、様々な考えを共有したり児童生徒目線に立った学習課題達成の難しさに気づいたりすることができた。また、音素材の生かし方を工夫し、相手に伝わるように言葉や演奏で表現することの楽しさについて、意見交換することもできた。

(3) 小中音楽祭では感染対策を十分に講じ、各校引率者の協力も得ながらスムーズに運営することができた。一般の鑑賞はできなかったが、日頃の学習の成果を発表する場として開催でき、参加した児童生徒は満足そうだった。

5 今後の課題

(1) 「いつ、何をどのように」という評価の在り方とともに、授業の中でどのようにICTを効果的に活用するかについて研修を計画していきたい。

(2) 小中音楽祭の開催については、運営面や発表の仕方等について他地区の要領を参考にしながら、よりよい行事として続けていきたい。

(3) 研究会における感染対策を最大限に考慮した上で、これまで少なくなってしまう音楽研究会をより充実させ、小中9年間を通して延岡地区の音楽科としての学力を高める対策を講じていく必要がある。

研究主題「つながる 深まる 広がる そして拓ける未来

～感性を育む音楽の学びを通して～

会 長 五ヶ瀬町立上組小学校 伊藤 寿朗

理事長 日之影町立日之影中学校 矢野 翔太

1 主題設定の理由

本地区は、日之影・高千穂・五ヶ瀬の三町からなり美しい自然の中で神楽を中心とした伝統芸能を継承している。また、それぞれの町で音楽発表会が開催され、それに向けた音楽活動が活発に行われている。しかし、へき地・小規模校のため、異動のサイクルが早く、小学校においては音楽専科不在の学校が多いことから、音楽の授業をどのようにすればよいのか悩みの声も多い現状がある。そのため、小中学校が連携して研究・実践を深めたり、実技講習会を実施することで、指導技術などの向上を図る必要がある。

そこで、本年度は、これまでの成果と課題をもとに、県音研の研究主題に即し、教師自らが学び合い、指導技術を高めることで、児童生徒の基礎的・基本的な技能や能力が高められ心豊かな児童生徒の育成につながると考え、本主題を設定した。

2 事業内容

月	内 容	会 場
5	県音楽教育研究会役員総会	オンライン
7	郡教科等研究会 ・役員選出 ・研究主題等検討	上組小学校
10	学校と地域をつなぐ 小・中学校音楽祭	宮水小学校
11	五ヶ瀬町教育文化祭 (中止)	五ヶ瀬中等 教育学校
	高千穂音楽フェスティバル	録画開催

12	実技講習会事前打ち合わせ	上組小学校
	実技講習会	上組小学校

3 研究の実際

○ 実技講習会

期日：12月8日（木）

内容：ICT を活用して、「何」を「どのように」学ばせるか。

会場：五ヶ瀬町立上組小学校

講師：延岡市立東海中学校 指導教諭

中島 香織 先生

教育出版デジタル教科書担当者様



昨年度は研究授業、実技講習会共に実施することができなかったが、地域の実態からせめて実技講習会だけでも行い、授業力の向上は図りたいと考え、中島先生に依頼をして「ICT を活用して、『何』を『どのように』学ばせるか」について講習をしていただいた。教育出版の方にもオンラインで参加していただき、実際に小学校版のデジタル教科書を使いながら以下の様な効果的な指導の在り方について学ぶことができた。

- 音楽科として Society5.0 の達成に向かう。「社会が変わる」「学びが変わる」ことを踏まえ、そこに対応できる人材を育成することが求められる。全て新しいことではなく、これまでのものを大切にしつつ、その迫り方を“今のツール”に変換することが大切。
- 音楽室で無線 LAN が繋がらないなど、使いたくても使えない状況である学校もあると聞く。次期学習指導要領実施に向けて早急に環境整備が必要である。
- ある楽曲を聴き、イメージを言語化する作業を実際にその場で行うことで、児童生徒の目線になって「音楽的な見方・考え方」について考えを深めることができた。
- 小学校版のデジタル教科書の扱い方について、教育出版の方にレクチャーしていただき、基本的な扱い方について知ることができた。
- 器楽や歌唱において、デジタル教科書が音を出しながら楽譜を示してくれるので、学習者の助けになることを実感することができた。
- 創作においては、学習者が操作できることが前提ではあるが、試行錯誤しながら自分の選んだ音が曲になることを実感できるのは大変意義深かった。
- 「サウンドエンジン」や「ラジオライン」「ドミノ」など、デジタル教科書以外のツールについても活用の仕方を教えていただいた。
- 音楽の要素についての掲示をすることで、楽曲を聴き感じたことを発表する際に、子どもたちが掲示を見ながら要素を根拠に述べようとする姿がみられるようになった。
- 教育出版の方に、具体的な活用例を多く示していただくことができた。デジタル教科書に書き込んだ状態を複数保存できることについては、グループ毎に考えを記入したり、創作を例示したりするときなど、クラスを複数受け持つときに限らず活用することができそうである。
- 小学校での指導で日頃悩んでいることについて中学校の先生方から助言をいただくことができた。
- 会終了後も、積極的に情報交換が行われ、小学校、中学校の連携という意味でも成果があった。

5 今後の課題

- 今後も、この地域の「異動のサイクルが早く、小学校においては音楽専科不在の学校が多い。」という現状は変わらないと考えられる。今年度の研究をふまえ、さらに児童生徒の感性を豊かにし、音楽科の目標を達成できるよう、よりいっそう小学校と中学校で連携を深め、充実した指導ができるよう研究を進めていきたい。

4 研究の成果

- 今まで、音楽科の中でデジタル教科書を扱ってこなかった職員もいたが、その有用性について実感することができ、すぐにでも授業に取り入れたいという声が多くあがった。
- デジタル教科書はガイドの音が流れ視覚的な表示もあるため、楽譜をモニターに映して共有すると、譜読みの苦手な児童もすぐに演奏することができるようになった。

指導案形式

- 小学校
- 中学校

第〇学年学習指導案

〇〇立〇〇小学校
教 諭 ●● ●●

1 題材名 ……………
教材名 「 」 〇〇作詞 〇〇作曲

2 題材の目標
（１）
（２）
（３）

3 本題材で扱う学習指導要領の内容

A 表現 （１）歌唱

ア

イ

（ア）

ウ

（ア）

【共通事項】（１）

本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：

「 」、 「 」……

4 評価規準

知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
知	…………… ……………	思	…………… ……………	態	…………… ……………
技	…………… ……………				

5 題材観

6 教材観

7 児童観

8 指導と評価の計画 (○時間)

時	■ねらい ○学習内容・学習活動	知・技	思	態
		<評価方法>		
1	■ ○ .			
2 (本時)	■ ○ . ○ .	知 〈ワークシート1〉	思 〈観察〉	
3	■ ○ . .	技 〈ワークシート2〉 〈演奏〉		1 2 態 〈ワークシート〉

9 本時の学習

- (1) 目標
- (2) 学習指導過程

学習内容 ○学習活動	めあて	○指導上の留意点	◆評価規準<評価方法>
1 ○		○	
2 本時のめあてを確認する ○ 本時のめあてを理解する。		○	
3 ○			◆ <観察・ワークシート>

- (3) 板書計画

第〇学年学習指導案

〇〇立〇〇中学校
教 諭 ●● ●●

1 題材名
教材名 「 」 〇〇作詞 〇〇作曲

2 題材の目標
(1)
(2)
(3)

3 本題材で扱う学習指導要領の内容

A 表現 (1) 歌唱

ア

イ

(ア)

ウ

(ア)

【共通事項】(1)

本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：

「 」、 「 」

4 評価規準

知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
知	思	態
技				

5 題材観

6 教材観

7 生徒観

8 指導と評価の計画 (○時間)

時	■ねらい ○学習内容・学習活動	知・技	思	態
		<評価方法>		
1	■ ○ .			
2 (本時)	■ ○ ○ .	知 〈ワークシート1〉	思 〈観察〉	
3	■ ○ . .	技 〈ワークシート2〉 〈演奏〉		態 1 2 〈ワークシート〉 〈観察〉

9 本時の学習

- (1) 目標
- (2) 学習指導過程

学習内容 ○学習活動	めあて	○指導上の留意点	◆評価規準<評価方法>
1 ○		○	
2 本時のめあてを確認する ○ 本時のめあてを理解する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">.</div>		○	
3 ○			◆ <観察・ワークシート>

- (3) 板書計画

令和4年度 宮崎県音楽教育研究会本部役員

役職名	職名	氏名	勤務校	勤務先電話
会長	校長	橋口 康明	宮崎市立生目台中学校	0985-54-6000
副会長	校長	岩永 律子	宮崎市立大淀小学校	0985-51-4362
理事長	指導教諭	金本 志秀	国富町立木脇中学校	0985-75-2559
副理事長	指導教諭	長沼 康孝	宮崎市立赤江小学校	0985-51-4366
事務局長	教諭	楠田 一枝	都城市立庄内中学校	0986-37-0526
幹事	指導教諭	黒木 順子	綾町立綾小学校	0985-77-0009
	教諭	川島 美哉	日南市立吾田小学校	0987-23-1129
	教諭	児玉 鈴香	宮崎市立江平小学校	0985-24-4364
	教諭	生駒 真知子	宮崎市立田野小学校	0985-86-1100
	教諭	鳥原 菜穂子	国富町立本庄小学校	0985-75-2553
	教諭	森永 仁美	宮崎市立西池小学校	0985-24-2611
	教諭	田中 恵子	宮崎市立学園木花台小学校	0985-58-4820
	指導教諭	兼重 博美	宮崎市立江南小学校	0985-53-5005
	教諭	須志田 直美	宮崎市立加納小学校	0985-85-3100
	教諭	竹内 美貴	宮崎大学教育学部附属小学校	0985-24-6706
	教諭	櫻井 和也	小林市立小林中学校	0984-23-4168
	教諭	重永 智子	宮崎市立清武中学校	0985-85-2011
	教諭	深江 信子	宮崎市立佐土原中学校	0985-74-1177
	指導教諭	宮永 典子	宮崎市立宮崎中学校	0985-24-3380
	教諭	吉元 成美	宮崎市立久峰中学校	0985-73-1188
	教諭	赤塚 由姫	都城市立沖水中学校	0986-38-1335
	教諭	酒井 康	宮崎市立生目台中学校	0985-54-6000
教諭	渡邊 祥吾	門川町立門川中学校	0982-63-1037	
顧問	主幹	竹村 新吾	宮崎県教育庁	0985-26-7033
参与	教授	菅 裕	宮崎大学	0985-58-2889
常任理事	宮崎市、東諸県、南那珂・都北・西諸県・西都市・東見湯、日向市、延岡市、西臼杵地区の会長及び理事			
監事	教頭	渡邊 常介	宮崎市立生目台中学校	0985-54-6000
	教頭	矢野 学	宮崎市立大淀小学校	0985-51-4362

宮崎県音楽教育研究会会則

- 第 1 条 本会は「宮崎県音楽教育研究会」と称する。
- 第 2 条 本会は県下の小・中学校教職員をもって組織する。
- 第 3 条 本会は各地区に地区研究会を置く。
- 第 4 条 本会の事務局は会長が委嘱した学校に置く。
- 第 5 条 本会は宮崎県音楽教育を振興することを目的とする。
- 第 6 条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。
- (1) 音楽教育に関する研究及び調査
 - (2) 音楽教育に関する研究会・講習会・鑑賞会等の開催
 - (3) その他本会の目的達成に必要な事業
- 第 7 条 本会の最高議決は総会とする。
- 第 8 条 本会に次の役員をおく。
- 会長 1 名 副会長 2 名 理事長 1 名 副理事長 1 名 事務局長 1 名
幹事 若干名 顧問 若干名 参与 若干名 地区会長 地区 1 名
理事 地区理事 1 名 常任理事 若干名 監事 若干名
- 第 9 条 役員を次の方法によって選出する。
- (1) 会長は宮崎市の会長をもってあてる。副会長は宮崎市の副会長及び県音研大会開催地区の会長をもってあてる。
 - (2) 地区会長は地区の小中学校長をもってあてる。
 - (3) 理事長・副理事長は会長が委嘱し、総会で承認を得る。
 - (4) 理事は各地区の理事長をもってあてる。
 - (5) 常任理事は宮崎市、西都市、南那珂、都北、延岡地区の会長及び理事長をもってあてる。
 - (6) 事務局長は会長が委嘱し、総会で承認を得る。
 - (7) 幹事は会長が委嘱し、総会で承認を得る。
 - (8) 監事は会長が委嘱する。
 - (9) 顧問・参与は会長が推薦し総会で承認を得る。
- 第 10 条 役員の任務は次のとおりとする。
- (1) 会長・・・本会を代表し会務全般を統括する。
 - (2) 副会長・・・会長を補佐し会長に事故あるときはこれを代行する。
 - (3) 地区会長・・・各地区を代表し各地区の会務全般を統括する。
 - (4) 理事長・・・理事を代表し本会全般の運営にあたり各地区との連携を図る。
 - (5) 副理事長・・・理事長を補佐し理事長に事故あるときはこれを代行する。本会の庶務その他の事務遂行にあたる。
 - (6) 理事・・・各種本会業務の各地区での推進を図るとともに各地区業務の企画運営にあたる。

- (7) 常任理事・・・本会の緊急事項を審議し処理する。
- (8) 事務局長・・・会の庶務・会計の事務遂行にあたる。
- (9) 幹事・・・役員総会・理事会・常任理事会で決定した事項を処理する。
- (10) 監事・・・本会の会計を監査する。
- (11) 顧問・・・会長の諮問に応じ音楽教育振興のために意見を述べる。
- (12) 参与・・・音楽教育を側面的に援助し、また本会の運営に協力する。

第11条 役員の任期は1年とし再委任をも妨げない。

第12条 本会は次の役員会を持ち会長がこれを招集する。

- (1) 役員総会（地区会長・地区理事長）
- (2) 常任理事会（宮崎市、西都市、南那珂、都北、延岡地区の会長及び理事長）
- (3) 本部役員会（会長・副会長・理事長・副理事長・事務局長・幹事）

第13条 本会の運営資金は補助金・会費・事業収益・及び協賛金をもってこれにあたる。

第14条 本会則の改訂変更は役員総会の決議によるものとする。

第15条 本会に必要な細則は常任理事会において定めることができる。

第16条 本会は昭和41年4月1日より効力を発する。

附 則

第1条 各地区にはそれぞれ役員をおく。人員及び選出方法は各地区により決定する。

会長・副会長・理事長・副理事長

第2条 本会は九州音楽教育研究会、全日本音楽教育研究会と連携する。

第3条 この会則は改正の日から効力を発する。

- (1) この会則は平成12年5月29日から効力を発する。
- (2) この会則は平成30年5月25日から効力を発する。（第9条(3)を改正）

改 正 第2条の語句削除、第9条(4)の語句削除、(1)、(2)、(3)、(5)、(6)、(7)、(8)、(9)の改正規定、

第10条の(3)、(4)、(5)、(6)、(8)、(11)の改正規定、第12条の改正規定、第12条の語句訂正、第15条の改正規定、附則第3条(1)、第9条(3)改正規定

内 規

1 役員選出について

役員総会に於ける役員の選出を円滑にするために事前に役員選考委員会を設けることができる。

2 役員選考委員会の構成

旧年度の会長、副会長、理事長、副理事長、事務局長、幹事より1名の6名で構成する。ただし、次年度県大会を宮崎地区以外で開催する年度は、開催地区会長及び理事長を加えた8名で構成する。

第63回九州音楽教育研究大会 宮崎大会

第43回宮崎県音楽教育研究大会宮崎地区大会

研究授業 小学校部会報告

- ・表現（歌唱） 第1学年
- ・表現（音楽づくり） 第4学年
- ・鑑賞 第5学年

分科会 学年	題 材		授業者
小学校 表現 (歌唱) 第1学年	まねっこして互いの声を聴きあいながら、楽しく歌おう。 「もりのくまさん」		宮崎市立本郷小学校 教諭 河野 彩花
	協議題「感性を働かせた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善はどうあればよいか。」		
	司会者	記録者	指導助言者
	宮崎市立加納小学校 須志田 直美	宮崎市立本郷小学校 教諭 猪股 千春	大分市立神崎小学校 校長 望月 美貴

1. 授業者の反省

- 本学級の児童は、歌うことが大好きで、音楽の授業ではのびのびと歌えている。しかしそれは、自分の世界で楽しむことが多く、友達の声聴くことを意識したことがあまりなかった。
- 「もりのくまさん」は曲の前半が交互唱であり、友達の声意識するのに適した教材だと思った。後半は声が合わさる心地よさや楽しさを味わうことができる。
- ストーリー性のある歌詞で、くまさんとおじょうさんの気持ちに寄り添いやすい教材だった。
- 1時間目の学習から、子どもから「まねっこが楽しい、息がぴったりでうれしい」という感想が出てきたため、ねらいに迫っていけると感じた。2時間目に初めてグループ活動を取り入れた。
- 本時は、2時間目と同じ流れにしていたので、子どもたちは安心してスムーズに活動できた。一方で、終始同じ活動だったので、さらなる工夫が必要だったと反省している。
- 子どもの発言の中に、他者を意識した発言が増えた。さらに、案があれば教えてほしい。

2. 質疑・応答（●授業者）

- (江平小：児玉) 授業の間はずっと曲が流れているのがよかった。同じ流れを前時でしたとき、子ども達にどのような気持ちを聞き、どのような反応があったのかを教えてほしい。
- 「おじょうさん おまちなさい」は、普段使わない言葉だったので、気持ちというよりも、言葉の面白さに焦点を当てた。焦っているくまさんの様子を表現する児童の姿も見られた。
- (江平小：児玉) 最後に使ったペープサートの活用についてお話ししてほしい。
- 学習全体のまとめということもあり、1～5番をみんなで歌いたいという意識を高めたかった。気持ちを切り替え、最後まで楽しく、目的意識をもって活動できるように取り入れた。

3. 研究協議（●授業者）

- (木花小：東長) 前半部分は、互いの声を楽しみながら聴きあうことができ、後半部分は、フレーズ感を聴き取らせて、声を合わせて歌う技能も身につけることができ、的確だった。
- (江平小：児玉) 自分がこの曲で授業したときは、どうしても動作になってしまっていた。河野先生の授業では要素を大事にして授業されており、自然な身振りをしている姿がよかった。
- 身体表現の方に重きが置かれなにか心配だったが、「声をよく聴いて」「声を合わせて」といった声かけをしていったことで、子どもたちが意識していくようになった。
- (本郷小：猪股) 前時で同じ活動をされていたことで、子ども達は本当に落ち着いて授業ができていた。子ども達は飽きることなく歌っていたので、流れは効果的であったと思う。
- (檜小：中島) 先生の声かけは、気持ちの関わりに気付かせる手立てとしてとてもよかった。
- (木花小：東長) 指導書の2時間扱いを3時間扱いにしたことについて、詳しく聞きたい。
- 曲との出会わせ方を大切にしたい、本時の見通しをもつために前時と同じような流れでやりたい、という思いからこのようにした。「自分で歌うのが楽しい」という児童の感想が、「みんなですると楽しい、面白い」という他者を意識した感想に変わっていった。
- (江平小：児玉) 歌唱の時間が制限される中で、歌の時間を増やし、1年生のうちに歌う喜びや交互唱の楽しさを感じられたのはよかった。2年生の教材に繋がる流れになっている。

- （檜小：中島）物語性のある教材で段階を追ってしたのは、児童の意欲付けになっていた。
- （古城小：浜砂）自分は2年生を担当しており、3・4人グループで話し合い活動をしている。子ども達に番号を割り振り、話す順番を決める工夫をしている。
- （宮崎南小：進藤）グループ活動を近くで聞いていたが、リーダーの子が、「高い声で歌ってみよう」という発言をしており、1年生なのにすごいと感じた。
- （檜小：中島）子ども達は、歌い方の工夫の仕方を身体表現で表していた。言葉で伝えるのは難しかったように思うが、今後の活動のきっかけ作りになっていたと思う。
- （木花小：東長）最後に出されたペープサートの工夫を教えてほしい。
- 学習のまとめということで、子ども達が集中力を維持しつつ、最後まで楽しめるように取り入れた。プレ授業では、声を聴きながら歌うことより、歌う楽しさの方が勝ってしまった。めあてに戻り、相手の声を聴くところを大切にしていきたいという思いから取り入れた。
- （大分県植田小：徳部）子ども達が生き生きと歌う姿を見て感動した。私自身元気をもらった。教具等の細やかな工夫をされているからこそ、このような素敵な授業になったと思う。
- （大分県三重第一小：浦部）1年生のうちに、学習を積み重ねることが大切だと感じた。大分県では、めあての後に「課題」がある。自分もどう聴かせるかを考えて取り組んでいきたい。

4. まとめ（指導助言者名 校長 望月 美貴）

私は、30年ほど前に九音研に授業者として参加し、現在は、大分県音楽教育研究会の会長をさせてもらっている。昨年度大分県は、誌面開催だったが、今回は、早い時期にハイブリッド型開催を決められ、感銘を受けている。今回の授業でも、音楽が鳴り響く中で、1年生としてのフレキシブルな活動が積み重ねられ、生き生きとした子どもの姿を見た。事前に、指導案を見たとき、正直、レベルが高いと心配したが、動画を見ると、音楽をすでに楽しんでいる子ども達の姿が映り、これまでの指導の積み重ねを感じた。また、本郷小学校は、「ありがとうがいっぱいの本郷小」を合言葉にしており、子ども達の心育ができてきている学校だと確認した。今回の指導計画は、子ども達の実態に合っており、聴きあい、歌いあいを通して、さらに音楽的感性を育てる素晴らしい授業だった。

続けて研究の視点に沿って話すと、「何を学ぶか」の明確化、要素の焦点化は適切であったと考える。物語性をもった歌詞の内容は、子ども達にイメージをもたせやすく、「呼びかけとこたえ」「フレーズ」という要素の選択は効果的だった。表現の工夫についても、体を動かしながら、感じていることを歌声にのせて、学びあいながらの取り組みができていた。めあての実現に向けても、様々な表現の姿があった。みんなの前でも物おじせず、一人で歌える子ども達が育っていること、良さの言い合いができることが素晴らしい。声に意識しながらも、自然な動きが出ていてよかったし、とても微笑ましかった。「どのように学ぶか」の工夫も十分にされていた。首にさげた絵、拡大歌詞、周りに置かれている森を想像させる造形物、そして、ペープサートのくまさんとおじょうさん、河野先生の語りも Goodjob だった。

余談だが、今回自分も勤務校で、1年生の授業を1時間してみた。5番の歌い方を話し合わせたら、2通りの歌い方が出てきて驚いた。「らららら〜」と繋げて歌うものと、「ら ら ら ら」と弾んで歌う歌い方である。みなさんも、学校の子どもの実態に合わせて、先生流の授業をしていただきたいと願う。

最後に、検討事項を2つ。1つは伴奏についてである。今回の音源では、伴奏と歌がずれる場面もあった。ピアノ伴奏だったらどうだっただろう。また、8分音符を刻むリズム感を感じさせることも必要なのか、学年が上がってから身につければよいか、と考える。もう1つは、最後に歌を通すときに、先生が指揮をしたらどうか、手を下ではなく、上に向けて振ったらどうだろうかと考えた。いずれにしても、動画を見ながら、素晴らしい時間を過ごさせてもらい、本当にありがとうございました。

分科会 学年	題 材		授業者
小学校 表現 (音楽づくり) 第4学年	音のつなげ方や重ね方の特徴を理解しながら、音楽の仕組みを用いてまとまりのある音楽をつくろう。 「森の音楽」(児童作品)		宮崎大学教育学部附属小学校 教諭 竹内 美貴
	協議題「感性を働かせた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善はどうかあればよいか。」		
	司会者	記録者	指導助言者
	宮崎市立宮崎小学校 教諭 鈴木 昭子	宮崎大学教育学部附属小学校 教諭 長谷場 由久子	琉球大学教育学部 教授 小川 由美

1. 授業者の反省

- 導入の段階から、絵本等の提示によって意欲をもたせることができた。題材計画を提示していたところも効果的であった。
- 音楽を形づくっている要素の精選はよかったが、子どもの作品を見ると、「呼びかけとこたえ」を積極的に使う子どもは少なかった。「呼びかけとこたえ」のよさの実感はもう一歩であった。また、子どもたちのイメージと表現(音)の意図とをつなげることについての教師のかかわり方を工夫するべきであった。早い段階から自分たちで話をするようにするとよかった。
- 学級担任であるということを生かしてグループの人数やメンバーの構成を工夫したこと、教具を工夫してホワイトボード上で操作できるようにしたこと、一人一役をもたせたことが協働的な学習の面から効果的であった。楽譜をつくらせたこともよかった。考えてまとまりのある音楽をつくること、子どもが意識できていた。
- 対話はあったが、対話によって学びを深めることには課題があった。音楽をつくることに多くの時間を割き、お互いのグループでできた表現のよさ等を交流する時間が少なかった。交流があれば、もっと学びが深まっていたのではないか。このことは、題材をとおして言えることである。

2. 質疑・応答(●授業者)

- (碩台小:富崎) 楽器を選ぶ際に、楽器の音色等へのイメージをもつ時間を取ったか。子どもは、その楽器へのイメージを意識しながら選んでいたのか。また、2つのフレーズは、個人で作ったものを組み合わせて作ったのか。個人の作品を組み合わせたのなら、2つのフレーズをつくる際の子どもの反応についておもしろいものがあれば教えてほしい。
- 1学期に「まほうの音楽」をつくる活動をしている。その時に、自分のイメージに合った楽器の音色等を考え、本題材はその経験を生かせるようにした。この題材については、1学期のことを想起した程度である。しかし、楽器を選ぶ際に、実際に音を鳴らしてイメージとつなげながら学習を進めた。教師が楽器や素材を指定せず、同じものでも様々な楽器で表現できるようにした。2つのフレーズは、第1時で、個人で森の音色探しをしたときに探した音色を照らし合わせ、組み合わせ方等をグループで考えさせた。

3. 研究協議(●授業者)

- (碩台小:富崎) 音楽を形づくっている要素が多いと思ったが、題材をとおして扱うならばこのくらい扱ってもよい。フレーズが2つであるので、「音の重なり」「反復」が主になったのはしょうがない。フレーズづくりの段階では「よびかけとこたえ」が出てきたはずである。本時は、4つの要素のなかから2つぐらいの要素に焦点化をして、子どもも焦点化した要素について理解したのであればよいと思う。
- 本時に至るまでに、第1時では森の音を探して図形譜に記す活動をした。光等の音がしないものも、音のイメージ等を考えさせた。自分でイメージした音は、図形譜で記譜をさせて、2時間目以降の活動につながるようにした。常時、絵本を置いたり、教室の背面に学びの成果を掲示したりした。

第2時は、A(静かなフレーズ)とB(にぎやかなフレーズ)の2種類のフレーズをつくった学習であった。このなかで、「呼びかけとこたえ」や、「音の重なり」についても扱った。フレーズを重ねた時のことも想像させながらフレーズをつくらせた。また、第2時の終わりでは、テーマを考えさせた。ホワ

イトボードを活用して、森の様子の詳細だけではなく、どのように楽器を鳴らしたいかということについても記録させた。

第3時は、「森の1日」の音楽をつくる時間であった。全体で確認する際に示した例示に影響を受けてしまっているグループもあった。ほかにも、重ねずに、連続してフレーズを組み合わせていたグループもあった。朝から賑やかな様子を表すグループもあり、どのような様子であってもグループの考えを認めるようにした。

- （穆佐小：近藤） カードを動かしながら2つのフレーズを組み合わせて「森の一日」をつくる活動はできていた。しかし、実際に演奏するときにはタイミングを合わせることで等の難しさを感じている印象だった。考えたおりに演奏するための教師の支援と実際の発表の様子を教えてください。
- AとBのカードの操作はできていたが、実際に演奏する場面では、音を出すタイミング等は難しくそうであった。教師は、「アイコンタクトをするとよい」、「何秒間をとるか」、「どうしたらうまく重ねられるのか」等の声掛けを行った。AとBを複雑に重ねて音楽をつくっていたグループについては、シンプルなフレーズづくりをするように声掛けをした。
- （小松台小：黒木） アイコンタクトは、歌でも器楽でも大事にしたい。自分は、子どもに音楽室に入るときと出るときからアイコンタクトを取るように配慮している。授業のなかで、「話すことと楽器を鳴らすことを2つともしてくださいね。」という教師の声掛けが大切だと思う。普段の授業でも、学び合ううえで「話す」ことについてのルールや実践があったら聞かせてほしい。
- 学級担任なので、他教科のなかでもグループでの話し合いを積極的にさせている。その時には、全員が何かを話すことを大切にしている。意見を言うだけでなく、人の意見を聞いた反応なども含めて話することができるように留意している。また、音楽科の学習では、音を鳴らさない細かい話はできないので、音を介して話をさせるようにして、言語だけの話をするだけにならないようにしている。
- （木脇小：多賀谷） カードの操作は非常に有効である。一方で、カードの操作だけに夢中になる懸念もある。例えば、言葉のきまりや文例のようなものをつくってもよいのではないかと。学び合いが深まる手立てとしても有効となるはずである。他のグループの演奏を聴いて、考えを書き込んでいるグループがあった。他のグループの演奏をきっかけに学び合いができると思う。

4. まとめ（指導助言者 琉球大学 教授 小川 由美）

まず、表現をするというのは、子どもたちがこれまでの経験を基にして思っていること（内側の世界）を、何かしら外に出していくということである。自分が表したいものと実際の表現とを相互に関連させることで、音楽作品が生み出される。感性は、例えば本時であるなら、子どもが表したいものを表すために用いていた音楽の仕組みが、自分の思いや意図を表現するのに適しているかを考えるときに働くと言われている。この感性が生活経験の想起や、表現する音を聴いて「これがよい」と感じることの両方に働く。このような相互作用を繰り返して、子どもの内側の世界が育まれていくと言われている。表したいイメージを表現するときに大切なのが「共通事項」である。特に、今回の平成29年告示の学習指導要領では、「聴き取ったことと感じ取ったこととのかわりをしっかりと考える」ということが強調されている。共通事項は、「構成要素」と「構成原理」に分かれているが、大事なことは、構成要素や構成原理によって、どのようなよさやおもしろさ、美しさが生まれているのかという結びつきを捉えるということである。これが、音楽的な見方・考え方で言うと「見方」である。この音楽的な見方を得ることで、音楽的な考え方ができるようになると言われている。学習のなかでも、音楽的な見方を全体で共有できると、グループでの活動の際に共通事項とその働きが生み出すよさや美しさ、おもしろさを感じることができる授業になりやすい。そして、実際に音で何度も聴き、実際の音で確かめていくことが大事であるということは、本授業の課題とも重なる。また、表現が他者にどう伝わるかということを見ると、「聴こえ方」の意識が生まれる。そのために、実際に音を鳴らしては聴くという相互作用を何度も繰り返して、イメージに合っているかを確認するという実験的な場が生まれる。グループ内やグループ間で聴き合ったり、早い段階でクラス全体で聴き合ったりするとよい。中間発表の際は、イメージが分かりやすい発表を取りあげることで、困っているグループのヒントにもなる。やはり、感覚として分かったことを言葉にして、自分でつかめることが大事になってくると思う。こういった貴重な機会を与えていただき、感謝申しあげる。

分科会 学年	題 材		授業者
小学校 鑑賞 第5学年	主題の変化を感じ取りながら変奏曲のよさや面白さを 楽しもう。 「ピアノ五重奏曲「ます」第4楽章」		宮崎市立学園木花台小学校 教諭 田中 恵子
	協議題「感性を働かせた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善はどうあ ればよいか。」		
	司会者	記録者	指導助言者
	宮崎市立赤江小学校 指導教諭 長沼 康孝	宮崎市立住吉南小学校 教諭 松浦 希美	熊本市立黒髪小学校 校長 柴田 治穂

1. 授業者の反省

- 本教材は3時間扱いで、本時は2時間目にあたる。児童の興味関心も高めながら、主題を演奏する楽器や「ます」の様子を確かめ、本時のめあてを児童が捉えやすい流れとすることができた。
- タブレット活用は、効果的な活用の仕方ということに重点を置き、書き終わった児童同士で回答共有出来る機能を使用した。それが、考え方の広がりにつながり、時間短縮にもなった。
- 鑑賞の授業で難しいのは、児童からでてきた意見をどう板書でまとめていくかということ。聞き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて結び付け方にとっても苦戦した。
- 第3変奏の主題を演奏している楽器が低い音の出る楽器と捉えることができるよう、敢えて2回聴かせ確認する機会をつくった。主題の4小節を掲示しておくことで、注目させる手立てとした。
- 児童に楽器を演奏する動作化をさせることにより、リズムの変化を感じとらせた。「ます」の様子もそれぞれの変奏で捉えることができ、子供らしい考えが出てきていた。
- まとめの段階の振り返りカードについて、気に入った変奏を書かせることで、めあての「よさやおもしろさを見つけよう」につながったと思う。
- 次時予告を行った際に、児童から「今日ではないのか」という意見が出たことから、本時の目標やめあてに近づくことができたのではないかな。

2. 質疑・応答（●授業者）

- (川南東小：黒木) 板書は、前時のものも含め、大変わかりやすかった。児童が自分の意見を記述するときの発言の基になる掲示や手立て等あれば知りたい。
- 音楽室に、同じ意味の言葉を集め、8分類したシートを掲示している。鑑賞だけの時間に限らず、初めて聞いた曲などの感想を言わせる場を設け、発言する機会を増やした。

3. 研究協議（●授業者）

- (調布大塚小：玉野) 子どもたちが生き生きしていた。「旋律」を扱うのが難しい。速度や強弱にすり替わってしまう。解説では、「音の動き方」や「音の繋がり方」と書いてある。授業の中で「リズム」がなかったので、要素にあったほうがよかったのではないかな。
- 授業を組み立てる段階で、旋律について話題に上がったが、旋律にはリズムが含まれていること、学習指導要領を根拠に検討し、最終的に3つに絞った。
- 主題と変奏を比較して聴いていく際、何度も聴く、歌う、言葉で表現する、弾き真似をするなどして、川や「ます」の様子を考えさせた。
- (大宮小：甲斐) 児童が主題に着目できない時に、何度も歌わせて主題を注意深く聴かせたこと、楽器を演奏する動作化が有効だった。子どもたちは、リズムや速度に続く言葉を間違いやすいので、それを防ぐために、言葉と言葉の組み合わせを考えた掲示も行っている。
- (清武小：村橋) どんな楽器か、どんな鳴らし方なのか、主題に目が行くような着目のさせ方と板書で、児童は主題を意識して考えることができていた。
- (檜北小：山代) ストーリー性があり感動的だった。鑑賞の授業では、児童の負担感を減らすため

に、色を塗らせる方法もある。その後、その理由を書かせると、速度・音色・リズムについて自然と考えて書く。音楽の授業は楽しく、みんなが参加できる形が望ましい。

○（宮崎港小：児玉）まとめを書かせるときは、ワークシートに書かせている。タブレットは、途中で考えたことを友達と共有するときに使うもの。今回うまく活用できていた。

○（吾田小：川島）すべての児童が使えるように改良を重ねてのワークシート。メモとしてタブレット。前時の学びの足跡をみながら、本時を振り返ることができた。

● キーワードを提示して、順を追って感想を書かせることで、普段書けない児童もよく書けていた。

4. まとめ（指導助言者名 校長 柴田 治穂）

研究主題のもと、宮崎県の先生方にはハイブリット型で様々な工夫をして開催してもらった。今回は、「知覚・感受」について重視したのがよく分かった。本時の授業の価値について述べたい。研究主題の「つながる・深まる・広がる」ために、視点①『『何を学ぶか』を明確にする』には、変奏曲の良さや面白さを見出すために、音楽を形づくっている要素3つが焦点化されていた。「旋律」にはリズムも音色も含まれる。扱いが難しいが、本授業では、歌わせることで旋律をしっかりと意識させていた。音楽の仕組みの「変化」では、リズム・強弱・速度・調の変化に注目させていた。『『どのように学ぶか』を工夫する』では、音楽的な見方・考え方を働かせた学習で、板書やワークシートの工夫が見られた。様々な他者と協働しながら、判断力・表現力を駆使し、ペアでの話し合い・タブレットのメモを利用しての話し合いが見られた。振り返りについては、田村学氏の著書「深い学び」の言葉を使うと、田中先生の授業では、学習内容を確認する振り返りがあった。学習内容の現在と過去との関連付けや一般化が、題材のまとめの段階で行われていた。学習内容を「自ら」とつなげ、「自己変容を自覚する」振り返りは、学年の最後や学期の最後になされるだろう。「音楽的な見方・考え方」は、学習指導要領によると、音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連づけることとあり、簡潔に言うと、聴き取ったことと感じ取ったことを関連づけることが音楽的な見方・考え方の基本となる。

授業場面を振り返ると、計画的な板書やめあての明示、主題の楽譜の掲示があった。視点①で、本時は3つの要素が焦点化してあった。視点②に関連するが、感じ取ったことと聴き取ったことがカードで示してあり、田中先生が整理しようとする意図が見て取れた。前時の学習内容の明示で流れがとても分かりやすい。子どもたちが集中して音楽を聴き、楽しんでいた。感じ取ったことをペアで伝え合うことを楽しんだり、先生のピアノによる楽曲の説明を拍手しながら楽しんだり、ストーリー性のある素晴らしい授業だった。子どもが黒板の前で説明する場面や「音色・旋律・変化」と音楽のどこからそう感じ取ったかを、関連付ける場面があるとよい。それが、「音楽的な見方・考え方」、「何を学ぶのか」に繋がると考える。振り返りカードも気に入った変奏の後にその理由を書くという活動があり、子ども達も非常によく書けていた。先生の温かいコメントも素晴らしい。ワークシートの下に、音楽を形作っている要素から3つの要素の言葉もいれると、児童が関連付けて書くことができたのではないかな。

熊本県大会の鑑賞の授業を紹介したい。ICT活用で、音の重なりに焦点化するために、ガレージバンドに各パートの生演奏を録音した教材を作成し、子ども達が自由に聴けるようにした。ペア活動では、一人がガレージバンドを、もう一人がロイロノートを起動し、分配器で同じ音源を二人で聴き、対話しながら、聴き取ったことを表現させた。言葉で表すことが難しい児童には、図形や絵で表現できるように選択肢を設けた。ロイロノートの資料箱にCDの音源を保存するのは、著作権上も認められている。「知覚」と「感受」を関連付ける表のワークシートを作成し、音楽を形作っている要素の言葉を使って、書き込むという指導をしていた。熊本と宮崎の共通の実践がたくさんある。本大会の取組は、関係の先生方の連携や協力がたくさん見えた実践でした。まだまだ予測困難な時期が続くようだが、本大会のように九州の皆様が心をつなげて今後情報交換や連携して魅力的な授業を作り上げていきたい。先生方の悩みや喜びも共通であると思う。田中先生、貴重な授業の提案をありがとうございました。宮崎の先生方、本当にありがとうございました。

第63回九州音楽教育研究大会 宮崎大会

第43回宮崎県音楽教育研究大会宮崎地区大会

研究授業 中学校部会報告

- ・表現創作 第1学年
- ・鑑賞 第2学年

分科会 学年	題 材		授業者
中学校 表現創作 第1学年	かるたの句に合わせて旋律をつくろう 【教材】「生目かるた」の句による生徒創作作品		宮崎市立生目中学校 教諭 米良 香織
	協議題「感性を働かせた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善はどうあればよいか。」		
	司会者	記録者	指導助言者
	国富町立木脇中学校 指導教諭 金本 志秀	宮崎市立赤江中学校 教諭 山口知栄子	大分教育事務所 指導主事 野崎 大輔

I 研究の経過

① プレ授業I（夏季休業前）

- ・ 試行錯誤しやすい条件や課題の在り方、工夫が深まる手順について検討
 - ★ 完成作品の小節数を3～4小節、かつ、各自の工夫で選択できるようにした。→殆どのかるたの句が3句切れのため、3小節でおさまり、4小節にした場合にできる間を工夫するまでには至らなかった→小節数は3小節に限定し、その中で試行錯誤していく条件にした。
 - ★ 音楽としてのまとまりやすさから、Cis Dis Fis Gis Aisの黒鍵5音に絞った。
 - ★ まず、身近な言葉のリズムや抑揚を音楽のリズムや旋律に変える活動を行って、その後かるたの句に挑戦させた→抑揚を音に変えることの困難さがわかった→抑揚は全体で対話しながら声や身体表現を使って確認し、その後に音を見つける活動に入った。
- ・ 授業実践報告を基に、創作の基本となる音符や音価、拍についての理解の時間設定の必要性の検討、及び次時につなげるための記譜法の検討
 - ★ 題材の最初に県版ノートの「ひむかかるた」による創作のページを利用して基本の学習を取り入れることにした。
 - ★ かるたの句の言葉のリズムをリズム譜（4分の4拍子、3～4小節）で表記させようとした。→音価を理解して拍に合わせたリズム譜として表記することに時間がかかった→リズム譜で表記するのではなく、言葉のリズムを生かしながら拍に合わせて割り付けることができるマスに表記するようにした。また、休符は×で表すようにした。

② 全題材の試案授業（8月末～9月）

- ・ 生徒の理解を深め、思考・判断につながるワークシートの形や内容、扱い方についての検討
 - ★ 旋律の表記を容易にするために、かるたの句の抑揚を生かして見つけた音を、マスに○を記入して表記させようとした→弾く時にスムーズに鍵盤を押さえられない生徒が見られた→鍵盤に表記した①～⑤の数字をマスに記入させ、押さえる鍵盤を探す負担を軽減させた。
 - ★ 1時間ずつワークシートを配付予定→前時の学習内容や、自分の工夫の変容が把握しにくい→ワークシートを重ねてホッチキスで束ねて使用させた。
- ・ 創意工夫していく中で、試行錯誤により生まれた自分の思いや意図を、よりわかりやすく伝えるための方法についての検討
 - ★ 自分の見つけた表現の工夫を班で伝え合うために、プリントに説明文を記述させた→自分の表現の工夫をわかりやすく記述することができない生徒が多かった→表現の工夫に関する文

章のマニュアルを示した。

- ・ ハイブリッド型での開催に伴うオンライン用の撮影にふさわしい機器の情報収集

★ 試案授業で様々な機器や撮影方法を使ってみて、音声状態、撮影の角度等をチェックし、情報センター、研修センター、業者、オンライン部等と相談しながら、授業として撮影しなければならない部分がより良く撮影できる方法を検討した。

③ プレ授業2（10月）

- ・ 言葉の特徴を生かした表したいイメージとはどういうことか、またそのイメージを広げたり深めたりするための手立てについて検討

★ かるたのイラストを先に提示し、そこからイメージを広げ工夫につなげ、同じような作品にならないようにと考えた→指導事項の「言葉の特徴」と関わらせるという点からはずれるのではないかという意見→1年生の発達段階を考慮して、読む時に感じる言葉の抑揚とリズムを生かして音楽にすることを優先した。 ※ 学習指導要領の確認、イメージの解釈の勘違い（臼井先生による）

★ 生徒の工夫の観点として「こっちの方が調子いい」「言いやすい」「リズムのノリがいい」「歌いやすい」等でB。2、3年の指導事項のような工夫をしていたらA。（臼井先生による）

- ・ 歌って発表することにつながるタブレットの使用方法についての検討

★ タブレットに録音することで、次時にその録音を伴奏にして歌う練習ができる、聴くことで作品の工夫の改善箇所を見つけやすいなどの利点を授業に取り入れることにした。

- ・ ハイブリッド型での開催に伴うオンライン用の撮影の方法について検討

★ 試案授業で様々な機器や撮影方法を使ってみて、音声状態、撮影の角度等をチェックし、情報センター、研修センター、業者、オンライン部等と相談しながら、授業として撮影しなければならない部分がより良く撮影できる方法を検討した。

2 本授業における研究の視点

① 「何を学ぶか」の明確化

- 表したいイメージを表現するためのよりどころとする音楽の要素の焦点化について

【よりどころとする要素の選択は効果的であったか】

・タブレットを使って実際に 5 音に絞ってされているところが簡潔。言葉にしっかり旋律をのせている姿が多く見られたので良かった

・教育出版はリズムを主にしたラップの教材があるが、ことばにはリズムがちゃんとあるということを抑えている中で 5 音を使って旋律を作っているという点が良かった。ことばのリズムが違うリズムになることがあるが、生徒の活動を見ていたらリズムの面白さを感じて創作していた。

・言葉のリズムと抑揚というなかで何を学ぶか明確、焦点化するというところにこだわりをもって今回の授業を創られていた。

【言葉のリズムや抑揚から感じる自分のイメージが工夫に生かされていたか】

・休符の位置を変えると曲がどのように変わるのか、そういう中での発展というのをとても子どもたちが楽しんでいた授業だった。今後 5 音から幅を広げたいと思わせるという思いが 2、3 年と次の段階につながっていくと感じた。

- めあての実現に向けて課題解決を進めていくことができるための指導過程の工夫について

【理解させることを段階を追って進めていくという題材全体の流れは効果的であったか】

・手で抑揚を示して一緒に読んだりさせたことが言葉の抑揚と旋律の関わりがあることを理解させるのに効果的だった。

・創作で学習したことが、歌唱や鑑賞教材とつながり、また違う題材を学習するときにも活かせる。

・伝えたいことを生かすために休符・リズムというところの効果を感じていたということが、それまでの積み重ねによって得られたところではないか。

【ワークシートは、生徒の学びの振り返りやゴールの見通しの一助となっていたか】

・段階を踏んでつくっているのが、わかりやすい。

・鍵盤を番号で表しているというのが子どもたちにとっては抵抗感が下がって取り組みやすかった。

・自分は工夫していく段階でこういうところを迷っているんだとか、こういうところにアドバイスが欲しいんだという創作した側からこういう部分でのコメントをください、というのがないと、言う側も言いやすい。

【創作の条件と手順は明確であったか】

（時間の都合で割愛）

② 「どのように学ぶか」の工夫

- 学が深まるための教材・教具の扱い方や授業形態の工夫について

【黒鍵の 5 音・GarageBand・タブレット・図形楽譜・班活動等は、学びが深まるきっかけづくりになっていたか】

・ガレージバンドは、どんな子でもハードルがさがって取り組みやすい(リコーダー等苦手な生徒もいるので)。

・人間が音を出すというところはあまり変わってほしくない。楽器を使って演奏したり、歌を歌ったりというのは大事にしたい。

・「歌って。」と先生が何回もおっしゃっていたので、実際、子どもたちも声を出して音程があっているかというのは抜きにしても、そのみんなの前で声を出せる雰囲気も素晴らしいなと思いました。

・見えないものを可視化するというところも大事。抑揚や高さを表す図形で表すことも良かった。

・班活動について、もう少しよくなる、次こうしてみようというきっかけとなるような話し合い活動やグループ活動にすれば、もう少し広がりが出る。

2 本授業における研究の視点

① 「何を学ぶか」の明確化

- 表したいイメージを表現するためのよりどころとする音楽の要素の焦点化について

【よりどころとする要素の選択は効果的であったか】

○バーチャルピアノでは強弱や音色の変化ができないので要素をリズム・旋律に絞っていてよかった。

○抑揚はどのようにして調べたのか？

→宮崎は抑揚があまりなく、抑揚をあまり知らないので、①赤とんぼで抑揚を知る②かるたの抑揚をクラス全員で考えるという流れにした。

○地域のかるたということで生徒と話し合いながら進めたのがよかった。

【言葉のリズムや抑揚から感じる自分のイメージが工夫に生かされていたか】

○自分のイメージを音にしようということが見えてすごく良かった。

○班で発表の時間に自分が工夫したところと創り上げた旋律がマッチしていた

本時よりも前の授業で言葉リズムを考える時に工夫があったのかなと思った。

●動画の中からは見取れなかった。

- めあての実現に向けて課題解決を進めていくことができるための指導過程の工夫について

【理解させることを段階を追って進めていくという題材全体の流れは効果的であったか】

○本時より前の、段階を踏んでいく指導過程がとてもよかった。

○「言葉の抑揚に気づく」ということで、生目かるたの学習に入る前に、簡単な言葉（スパゲッティ）などのリズムや抑揚を第1時でていねいに指導してから生目かるたに入っていたのがよかった。

○プレ授業で「創作の基本となる音符や音価、拍についての理解の時間設定の必要性の検討」についてその指導はどうしていたのか？

→ワークシートの四角の枠に言葉を書き込んで余った枠は×をつけること、

リズムの工夫が×の位置を変えることしかできないということをおさえていった。

それから、音程は鍵盤の5音を使って付けることを指導した。

●生徒が「×の位置を～」と話していたが、音楽の授業で休符って言葉を使っていないこと、また、階名のことを数字で言っていたので気になった。

→休符や階名で言うと生徒たちが難しく感じるので、今回は休符を×、階名を数字で表した。

【ワークシートは、生徒の学びの振り返りやゴールの見通しの一助となっていたか】

○ワークシートは段々自分の創作したものが積み重なっていく（言葉のリズム→抑揚→旋律・音の高さ→工夫する）ことでバージョンアップしていく流れが分かりやすく、生徒はやりがいがあるのではないかと思った。分からなくなれば自分たちで振り返ることもできる場所もよかった。

【創作の条件と手順は明確であったか】

○ リズム・旋律と創作手順が明確でワークシートに添って、進められており有効であったと思われる。ワークシートからも積み上げが、理解しやすい工夫がなされていた。

② 「どのように学ぶか」の工夫

○ 学が深まるための教材・教具の扱い方や授業形態の工夫について

【黒鍵の5音・GarageBand・タブレット・図形楽譜・班活動等は、学びが深まるきっかけづくりになっていたか】

○各都道府県のタブレットの実態

- ・クロームブックではクロームミュージックが入っているが保存はできない。
→クロームミュージックラボのソングメーカーを使っては？
自動で演奏してくれるので、演奏技術に惑わされない。
自分が表現したものを失敗せずに演奏してくれる良さがある
GarageBandではみんな弾きづらそうだった。
ソングメーカーでは自動演奏してくれるので、自分がやりたかった表現が表現できる。
- ・タブレットは1人1台ずつない。
- ・学年ごとにタブレットの機種が違う。
- ピアノを弾きながら歌っていたけど、その音程に合っていない子がいた。
- 弾きながら歌うのは難しい。(ソングメーカーでは自動で弾いてくれるのでやりやすい)
→ピアノを録音して、歌って発表する時に録音を流しながら上手く歌えるようにする。

【表現創作】ブレイクアウトルーム No. 【 3 】 記録者 (大淀中 山下遼子)

2 本授業における研究の視点

① 「何を学ぶか」の明確化

○ 表したいイメージを表現するためのよりどころとする音楽の要素の焦点化について

【よりどころとする要素の選択は効果的であったか】

- ・「生目かるた」の存在を初めて知った。
- ・リズムと旋律に絞っていてよかった。

【言葉のリズムや抑揚から感じる自分のイメージが工夫に活かされていたか】

- ・自分の感じる抑揚でよいのか。
- ・日頃から抑揚の指導を行うのは難しい。

○ めあての実現に向けて課題解決を進めていくことができるための指導過程の工夫について

【理解させることを段階を追って進めていくという題材全体の流れは効果的であったか】

- ・流れがスムーズでよかった。
- ・1年生は、抑揚経験が少ない中でよくやっていたと思う。
- ・次に何をするのがわかりやすかった。
- ・創作は細かい指示を出さないといけない。

【ワークシートは、生徒の学びの振り返りやゴールの見通しの一助となっていたか】

- ・【質問】黒鍵5音を使用した理由は？
- ・ワークシート：細かく作られていた。音楽の苦手な子でも取り組みやすいものであった。

【創作の条件と手順は明確であったか】

- ・5音に絞る→メリット：失敗しない、デメリット：似たような曲になる
- ・4/4の3小節 かるたなのでよかった。

② 「どのように学ぶか」の工夫

○ 学が深まるための教材・教具の扱い方や授業形態の工夫について

【黒鍵の5音・GarageBand・タブレット・図形楽譜・班活動等は、学びが深まるきっかけづくりになっていたか】

- ・【班活動】効果的なアドバイスができていた。
- ・生徒の面白い例を教師が拾ってあげる。
- ・全部子ども達だけで行うのは厳しい面がある。
- ・リズムと抑揚については、赤とんぼでしっかりと教えていかななくてはならない。

【表現創作】ブレイクアウトルーム No. 【 4 】 記録者（綾中学校 稲野さやか）

2 本授業における研究の視点

① 「何を学ぶか」の明確化

○ 表したいイメージを表現するためのよりどころとする音楽の要素の焦点化について

【よりどころとする要素の選択は効果的であったか】

- ・リズム、抑揚としぼったところが効果的だった。指導者も求めていく視点がはっきりしていた、生徒たちも目標をもって学習に取り組むことができた。
- ・赤とんぼの教材で抑揚を生かした学習をしたあとに、リズムと抑揚を生かした学習に取り組むことが効果的であった。
- ・授業の目標が明確化しており、分かりやすい授業だった。
- ・教材としてかるたを取り上げたことが分かりやすかった。

【言葉のリズムや抑揚から感じる自分のイメージが工夫に活かされていたか】

- ・5音の高さで限定されていたことで、抑揚の部分がつきにくいかと思った。
- ・生徒が演奏しやすいように5音で限定した。
- ・1年生では、教科書では3つの音が使われていた。
- ・抑揚にそって5音をつけることが分かりやすかった。

○ めあての実現に向けて課題解決を進めていくことができるための指導過程の工夫について

【理解させることを段階を追って進めていくという題材全体の流れは効果的であったか】

- ・リズム、抑揚だけにポイントをしぼったところが分かりやすかった。
- ・音符、休符を使わずに進めたところが分かりやすかった。
- ・段階を追って活動しやすい授業の流れだった。めあてを実現するのに、段階をおった指導内容だった。5時間扱いの授業の中で、初めての創作の内容だったので、しっかり定着する授業内容だった。

【ワークシートは、生徒の学びの振り返りやゴールの見通しの一助となっていたか】

- ・3小節に限定したつくりのワークシートが分かりやすかった。
- ・試行錯誤して作成した。生徒たちが順を追って学習できるように工夫した。マスを使って、小さい「つ」、休符を「×」で書くように指導した。細かに指導すると、しっかり図形楽譜が書けるようになった。
- ・小節ごとに言葉を入れる指導の工夫について
→1枚目のワークシートを全員で考え、いろいろな言葉を取り込んで考える場面を設定し、全体→個人、で言葉の入れ方、手拍子を打つなどの工夫をした。全員ができるように、何度も言葉を確認した。

【創作の条件と手順は明確であったか】

- ・条件としては的確で分かりやすかった。旋律を使っていく段階の時に、音ではなく、言葉を入れた方が分かりやすかったのではないか。
- ・旋律のところに数字を書くので、黒鍵の5音を書くような内容になっていた。
- ・演奏しやすさからいったら、数字で記入する方がよかった。

② 「どのように学ぶか」の工夫

- 学が深まるための教材・教具の扱い方や授業形態の工夫について

【黒鍵の5音・GarageBand・タブレット・図形楽譜・班活動等は、学びが深まるきっかけづくりになっていたか】

- ・生徒たちがタブレットを使いこなせていた。録音もできて聞きなおすことができた。
- ・記録として残せるので演奏の振り返りができる。
- ・ガレッジバンドにかわるソフトがあれば教えてほしい。
- ・振り返りをタブレットではなく、ワークシートでまとめるところが良かった。
- ・学習の振り返りやまとめは、タブレットではなくワークシートでまとめている。
- ・タブレットでの活用は録音、録画で効果的であった。

【表現創作】ブレイクアウトルーム No. 【 5 】 記録者（ 加納中 菅谷利依子 ）

2 本授業における研究の視点

① 「何を学ぶか」の明確化

- 表したいイメージを表現するためのよりどころとする音楽の要素の焦点化について

【よりどころとする要素の選択は効果的であったか】

- 授業の中で先生が何度も「リズムと旋律」「音のつながり」という言葉を生徒たちに向け言っていたので、授業の最初から最後まで一貫して何について考えるのかよくわかる授業であった。
- 今回の創作の材料がかかるたの句であったことから、その材料を何を扱うかによって違ってくると思うが、このかかるたの句の言葉が持っているリズムや抑揚を考えるためには、よりどころとするものが「リズムと旋律」この二つを要素として選択したのはよかったのではないか。それに従って生徒たちも創作活動が展開できていたのではないか。
- リズムと旋律の二つに絞ったというのは、1年生ということも考慮してできるだけ要素を絞って考えられた授業をしているのがわかった。
- 言葉のリズムや抑揚から感じる自分なりの思いをきちんと伝えることができていた。リズムと旋律に絞ってやったことが効果的であった。授業者側もそういったことを考えながら指導案を検討してきたので、良かったのではないかと思う。

【言葉のリズムや抑揚から感じる自分のイメージが工夫に活かされていたか】

- 授業会場には、かかるたの絵が掲示されていたが、絵から受けるイメージというよりも、抑揚の上がり下がりから、自分がどの音を選ぶかという形のイメージを持ち創作の活動に取り組んでいたのではないか。音で表現した時、「何か違う」とか「もう少し抑揚が上がってるから音を上げたい」という展開になっていた。いわゆる音からとったイメージを、「言葉のリズムと抑揚に合わせた」形であり、工夫した部分が全部そこに集中することができていたのではないか。
- 生徒たちの能力の差について。一人の男子生徒が活発な発言をし、授業を引っ張るような形で進ん

でいるのをリーダー的な存在と見受けられた。逆に終始頭を抱えて考えていた女の子もいた。工夫となるとそれぞれ育ってきた環境やその経験値の差から、できる生徒はかなりできるが、それ以外の沸々としながら50分間過ごした生徒たちに対し、どんな手立てがあったのか、今回参加している先生方の実践も聞きたい。

○今回の授業で、理解ができないようなイメージや本当に考えたのかというような意見があった。イメージはあってもそれをどう表現しているのか、言葉に出せない語彙力の乏しさもある。それができる生徒とできない生徒がいるので難しい。そういった生徒たちへのアプローチを、米良先生はどう考えられているのか、どう工夫されているのかを聞きたい。

→その部分が非常に難しいところであった。常に「言葉にきなさい」音が付いたら「口に出して歌いなさい」と指示をし、歌ったり話をしたりする中から「この音の高さのほうがこの句の持っているイメージにはあっている」と持っていくかかったところである。とにかく声を出して歌うことを、もう少し出せたらよかったと思っている。「もう少し話しなさい。何度も言うんだよ」と声掛けはしたつもりである。自分がこんなふうに音楽を作りたいということが文章の中に書ききれない生徒たちもいた。そこについては、机間指導をしながら「音を変えたのよね？音を変えたらどうなったの？」などの声掛けを可能な限りした。しかし34人いて全員が確かに書けるところまで持ってくるには、まだまだ私自身も力不足だと反省をしたところではある。授業する側として創作のもっと練っていかなければならないところかと思う。

○生徒たちに発表させるときに使っていたマニュアルについて。生徒たちが苦手意識をもっていそうな鑑賞や創作の言葉を使つての表現でよく使うが、米良先生もよく使っているのか？

→誰から発表するのか決まらないことで時間をとるのがもったいないので、今回作って提示をして実践した。今回初である。失敗したのは、「歌って発表」と繰り返し言ったが、文章の中に「演奏をする」と書いてしまった。「歌って発表する」などの「歌う」という言葉を入れなかったのが生徒たちの「歌う」ところにつながらなかったのかと思う。これは指導案にもなく、話し合いが上手く進むようにと自身で考えたことである。生徒たちに意見交換をさせる時は、このようなものがあると戸惑わなくてすむと感じた。今後も他の活動で使用しないといけないと思った。

○歌うことを恥ずかしがる、変声期等もあり鍵盤と音程があっていないなどあったと思った。皆の前で歌唱テストをさせ訴えられる事例があった。発表時に傷付く生徒も出てくる。すぐ訴えられるような時代であるので気を付けないといけない。

→この発表についてだが、最後の授業にクラスで一人ずつ発表をさせた。緊張している生徒もいたが、タブレットに録音したピアノ音を最大にして鳴らしながら発表した。苦手な生徒にとっては大変だったかもしれないが、自分の作品だからと発表させた。

○ めあての実現に向けて課題解決を進めていくことができるための指導過程の工夫について

【理解させることを段階を追って進めていくという題材全体の流れは効果的であったか】

○共同研究としてプレ授業・試案授業から携り、あの形になっていったのだが、結局、言葉のリズムを音楽のリズムに変える、それが言葉の抑揚を旋律に変える、それぞれの条件の中で工夫して深めるように理解させるべきことを段階を追って学んで行けるようなワークシートを作っていく形。最初はこの形から、授業をした米良先生のような形になっていった。自分が持っているものや感じているものをイメージ化したり、そのリズムや抑揚を旋律に変えることがすぐできる生徒と、そうではない生徒といて、思い悩むことが出てくる。それを、自分で考えた後に班を組み、そこで話し合いをしながらアドバイスをもらうという形で、その部分をより深く時間をとってやる形の授業展開をしていく中で、私たちが実際の授業の中でうまくいかなかったり、自分の悩みを打ち明けながらアドバイスをもらうことが足りないとか、ちょっとした声掛けなどの展開がもう少し見られてもよかったのかというのが率直な感想や反省である。そこが深まれば、できなかった生徒たちもそれなりに自分の作品に対しての想いが出てくるのではないかと思う。その辺が今後の課題と思うが、全体の流れとしては良かったのではないか。

○力をつける、創作や鑑賞何でもそうだが、自分の意見をきちんと持たせ、発言することで身に付けられないのか。前回やったことを振り返ってもなかなか自分のものにならず、身に付かない。その辺の創作で今回のこういったものを皆さんどうしているのか。どういう風にして理解させようとしているのか。音楽は学校に一人しかいないので相談する相手もいない。そういった悩みはあるのか。そこも含めて後で米良先生に聞きたい。先生方はどうされているか？何か工夫されているか？

→今回の学習は事前学習的なもので、最初にリズムの学習をし、リズムを応用してこの言葉にどのリズムがあっているかで授業が展開していく「スパゲッティ・ステーキ・ソース焼きそば」が出てくるノートの部分は、最初に創作をするというときに小学校での音楽的なものをどこまでやられたのか、何音符？と聞いても理解できない生徒もいれば、四分音符二分音符と二分休符を入れてと指示したときに、パッとできるところもあればその辺の音符を羅列したりしている。そのため、リズムの創作を最初に導入するとか基礎的な部分からの授業をしたので、目に見えない裏の時間もたくさんあった。その辺の積み重ねとしては大事である。学年が追うごとに積み重ねていけば、一度学んだ言葉を復習としてみれば、授業展開していけるのか。今の1、2、3年生を見て感じているところ。

○小学校からの積み重ねについて、履修しているだろうと思いきやほぼしていない、算数で言うと足し算引き算を習っていない状態。小学校の先生で音楽に対しての重さや考え方がいろいろあるのか。

→積み重ねについて、東海中学校は4校の小学校から上がってくる。音楽専門の先生が教えている場合とそうじゃない場合との差がある。中1で音楽を形作っている要素や音楽的な言葉を入れ込んでいこうとは思っているが、基礎の部分に差がある生徒ばかりなので苦労している。かるたの創作という5時間の中で、音楽的・言葉的なものをたくさん学習させられたのではないか。創作とこれまで学習してきた効果の表現の部分、歌唱や器楽の部分、鑑賞の部分で学習してきた言葉を積み重ねていく。それに小学校の積み重ねを大事にしないと、週一の授業では難しい部分もありきれいさっぱり忘れてくる。どうやって前次や小学校の部分を想起させようかという工夫は必要だと感じている。

【ワークシートは、生徒の学びの振り返りやゴールの見通しの一助となっていたか】

○後方に掲示していたワークシートについて、同じ生徒のが1時間目・2時間目・3時間目という感じで掲示してあり変容が分かった。デジタルのみでなくアナログ的なもので残していくと変容も見え、生徒たちも工夫した過程が自分で視覚的にもわかるのではないかな。

○検討途中のワークシートから使用して授業を行ったが、米良先生が段階を追うごとにワークシートもどんどん進化していった。それを使用する側もよく理解できたし、音符とまた違う鍵盤を数字で書く部分も書きやすかったように見て取れた。

【創作の条件と手順は明確であったか】

○3年間の発達段階の中で、それを満たした題材の扱いが、今回1年生ということで創作の条件を言葉の抑揚とリズムを生かすことに絞り、そこからスタートした。最初の段階としては良かったと思う。また、白鍵、5音ではなく3音を使うところから始まり、一番わかりやすいであろう黒鍵の5音になった。四分の四拍子の四小節でも三小節でも良いという形だったが、題材自身がかかるたの句だったことから、三句になり、四分の三拍子の三小節というように絞っていった経緯がある。そのことを踏まえても良かったのではないかな。

○ファのシャープから始まる場所については、調が異なることから、変更した経緯がある。生徒も白鍵より黒鍵を使ったほうが、その部分だけたれば良いので、その辺の理由で黒鍵が良いと私も発言した記憶がある。生徒たちも取り組みやすかったのではないかな。

② 「どのように学ぶか」の工夫

○ 学が深まるための教材・教具の扱い方や授業形態の工夫について

【黒鍵の5音・GarageBand・タブレット・図形楽譜・班活動等は、学びが深まるきっかけづくりになっていたか】

○延岡はクロームブックである。使い勝手は良くない。ガレージバンドは鍵盤を押さえながら、音の上がり下がりがわかるところが良い。クロームブックで今回と同じような創作を行うときには、デジタル教科書のブロックを積み重ねるものをさせている。

○ガレージバンドを使用するが、音符を入れられるソフトがあるといいと思う。実際に音符が見えてくると生徒たちもミュージシャンになった気分になれて良い。書き込みができるやつがあるといい。

○今回初めてガレージバンドを使用した。使用する部分の指定が必要、創作をするのには録音機能があることが非常に良かった。授業の中で繰り返し聴くことができるのも良かった。最終的に自分の作った音が楽譜になるまでさせたいがハードルが高いため、図形楽譜により作品が出来上がったことが満足感を得られたのではないかな。

中学校 A 表現創作 指導助言

【指導助言者 大分教育事務所 指導主事 野崎 大輔】

今大会が対面、オンデマンド配信、オンライン、ハイブリッドな配信と、通常の開催ではないがためにたくさんのご苦勞があったのではないかと思うが、子どもたちの学びだけではなく、教師側の学びも実施をしていただいたというところに本当に感謝を申し上げる。では、私から視点の中の②番「どう学ぶかの工夫」について。大きく3つ。まず1つ目は、ブレイクアウトの中で米良先生が「歌いながら音楽を作らせたかった」とおっしゃっていた。これはとても大事なことで、言葉の抑揚とリズム、旋律を作る中でとても大事なことだと思いながら授業を見た。今、一人一台端末が配布されて、創作ができるアプリ等の機器を使うことで、簡単に作品ができることが多いが、抑揚を生かすということは、やはり実際声に出さないと抑揚を生かすことはできない。大分県内の中学校でも、今回同じように言葉の抑揚を生かした旋律を作ろうとしたが、うまくいかなかったという授業を見たことがあった。やはりその授業は、子供たちが声を出して作っていなかった。多分これはタブレットと向き合って指で操作をして作って行って、タブレットで演奏してもらって、という形で、子どもが声を出して作るということがなかった。旋律とか言葉の抑揚となると、ちょっと難しくなるが、順次進行とか跳躍進行とか、声を出して抑揚をリズムに合わせて旋律を作っていくことがうまくいかず、それをやっているかいけないかということがこの作品作りの大きなポイントになっていたのではないかと思う。米良先生の反省の中で、「なかなか声が出なかったんですよ」とあったが、私が映像で見る子供たちはすべて口ずさみながら歌いながら作っていたなという印象。子どもたちはしっかり歌って作って、とても素晴らしい光景だと思ったし、こうやって実際に声に出して作ることで子供自身も自分が作った作品に対する愛着が沸いて、私の作品なんだという思いがより深まる。やっぱりそこが機械的に作ったものとは違うと思っているので、米良先生の授業は大変すばらしかった。授業中、「歌いながら、歌いながら」と何度も言われながらご指導されていたのが印象的だった。

2つ目はグループ協議の中で「ワークシートがとてもわかりやすかった」という話があった。今回のワークシートが歌詞のリズム、抑揚による音の高低、縦書きの5音階の旋律とか、初めて創作に取り組む生徒にとって大変わかりやすい内容になっている、ということ。それから音符を使わずに○をつける、という手立ても大変良かった。このわかりやすさが、結果的に子どもが作品を作っていった中盤で、生徒自身が演奏できて、それを音で確認できる。だから自分で練り直せることに繋がっている。創作の授業で生徒が自分の作品を演奏することはかなり難しいポイント。作ってみたけど、それがどんな作品になっているかわからない。だから先生が弾いて回る。授業では全部のこどもの作品を弾いてまわることができない。ということが私自身の反省でもあったが、今回は自分たちで自分の作品を作って演奏できる。そういった意味でも、このワークシート等は大変生徒にとってはわかりやすかった。少しワークシートについて付け加えるならば、創作活動の指導において大事なポイントは何か。作る作品のイメージをしっかりとこどもにもたせたいとか、そのイメージにあったリズム・旋律をつくらせるためのカードとか教える手立てを準備してとか、そうおっしゃる先生も多いのではと思う。イメージにあった全体構想を子どもがしっかり描けているか、というのがとても大事になってくると私は思う。要は子どもたちが全体を通したときにこういう作品を作りたいんだ、というところを子ども自身が描けているか、ということ。そうすると、「最初の音の入りをどうするか」とか「中間部はどうしていくかな」「盛り上げてどうするか」「最後の終わり方どうしていくかな」という全体構想を子どもがしっかりとイメージをもって、ワークシートで可視化できるということがとても大事。創作の授業では、中間発表したり友

だちと聴き合ったりして、ヒントやアドバイスをもらう。今回、米良先生もそういった活動を準備されていた。この可視化できるような全体構想は、中間発表で友だちの意見を聴きあう場面では大変有効的だが、実は本人だけでなく聴いている友達にとっても大変わかりやすいものになってくる。「○○君はこういう曲を作ったんだね」「こういう曲を作りたいんだね」「こんな曲を作ろうとしているんだね」それを自分だけじゃなくお友達にも伝えやすくなるっていう意味では全体構想というのとはとても大事になってくる。そしてそれを可視化することによって周りの子どもたちから見たら、「わあ、すごいね、イメージ通りの作品になっているね」というものもあれば、「こんな作品にしたいんだったらもうちょっとこういう工夫をしたほうがいいんじゃない」というようなアドバイスにもつながる。そこで今回は、「こんな感じにしたほうがいいんじゃないの」という声が映像では伝わってこなかった。どちらかといえば、「こんなことが良かったです。」というところは多かったけれど、「もう少しこういうふうにしてあげた方がいいんじゃないの」というところが少なかった。話し合いを深めるためにも、「こんな曲を作りたいんだね」というのがもう少し相手に伝わるようなしかけが必要だったのではないかな。生目かるたからどんなイメージをもち、それをどのような作品を作ろうとしているのかということを手伝うための一つがあってもよかった。工夫したことはいいが、工夫したことの前に、「こういう曲を作りたい。だからこういう工夫をしたんだ」という何か相手に伝えるための視点があってもよかった。今回初めての創作というので、3小節と曲が短いためイメージや全体構想は難しいので、今後、条件の幅を広げてスケールの大きなものを作っていくときに取り入れてもらいたい。

最後に、すべての先生方に関係してくるが、今回米良先生が創作の授業で取り組んでいただいた題材の学びが、ひとつの創作の授業で終わらないでほしい。今回歌唱の「赤とんぼ」から始まり、リズム・旋律の創作の授業という計画だったが、「創作での学び」「赤とんぼでの学び」を次にどうつなぐのか。リズムや言葉の抑揚、音の高低等、旋律を学んだということ、次の学びにどうつなぐのか。歌唱として、次の日本の歌曲、歌唱、合唱曲に、また鑑賞の教材に、新たな創作につないでいくのか。そういった学びの連鎖があるかないかが大事になってくる。授業時数の少ない中学校音楽科が求められているカリキュラムマネジメントだ。だから創作は、そういった意味では多様的に絡みやすい要素なので、是非この学びを次の学びにもつないでいていただきたい。

分科会 学年	題 材		授業者
中学校 鑑賞 第2学年	我が国の伝統音楽の様々な特徴を捉えながら、そのよさを味わおう【教材】歌舞伎「勸進帳」、能「安宅」、文楽「鳴響安宅新聞」勸進帳の段		宮崎市立生目台中学校 教諭 酒井 康
	協議題「感性を働かせた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善はどうあればよいか。」		
	司会者	記録者	指導助言者
	宮崎市立宮崎中学校 指導教諭 宮永 典子	宮崎市立大塚中学校 教諭 橋口 夏美	佐賀市立金立小学校 校長 副島 和久

I 研究の経過

① プレ授業I（夏季休業前）

- ・ 共通性や固有性を手掛かりに歌舞伎、能、文楽に使われる音楽の特徴を捉えるという題材のもつ意義や3年間を見通した題材の在り方についての検討と、その際によりどころとする音楽の要素の焦点化についての検討

★ これまでは、歌舞伎、能、文楽を単独で授業を行っていたが、共通性や固有性に目を向けるためには比較をさせることが重要と考え、この様な題材設定にした。その際、2年生であることから生徒が聴取することに注目しやすい音色と旋律に音楽の要素を絞った。また、一つ一つの芸能について更なる魅力に触れたい場合は、3学年で二つの要素以外に関わる授業内容を再度組むことができると考えた。

- ・ 歌舞伎、能、文楽に使われている音楽を比較鑑賞するのに最適な教材や教具・機器について授業実践したり視聴したりしながら検討

★ 2種の教科書の掲載曲、これまでの教科書の掲載曲も含め、ゴールに迫るためにふさわしい曲を視聴しながら探した。

★ 同じ歌詞の用いられている3つの芸能の音楽を知覚・感受した後、教科書等の情報をもとに予想をさせようとした。→生徒の意識が、音楽の特徴の共通点や相違点を根拠として考えることではなく、正解を導き出すことに偏った。→模範の音楽3曲を設定し、最初の3曲との比較鑑賞を繰り返すことで、共通点や相違点を根拠に予想をさせるようにした

- ・ 知覚・感受に関する生徒の実態把握から、生徒のゴールの姿や題材のねらいを検討

★ 2年生であること、音楽の言葉を使つての説明が不慣れであることから、音楽の特徴と歴史との関わりを扱う際にも二つの音楽の要素からの特徴を根拠としながら共通点や相違点を追求していくようにした。

② 全題材の試案授業（8月末～9月）

- ・ 生徒が知覚・感受したことを深めたり広げたりできるための発問の在り方や、知覚・感受したことを手掛かりに授業を発展させていく対話の工夫についての検討

★ 生徒の発表内容やつぶやきをキャッチして学びにつながる言葉に置き換えながら授業を進めていくようにした。

- ・ 本時のゴール及び題材のゴールに確実に向かうための発問や生徒の変容を見取れるワークシートの形や内容、扱い方はどうあればよいかについての検討

★ 題材の最後の時間に、「学習したことをもとに3つの伝統芸能の中で見に行くとしたらどれを選ぶか」という発問で紹介文を書かせようとした。→共通性と固有性がなぜ存在しているのかという自分なりの根拠に触れた批評文になりにくい→3つの伝統芸能の背景にある歴史を学ぶ時間を設定し、自分にとって一番興味のもてるものについて、その理由を共通性や固有性、歴史に触れながら書くような発問に変えた。

★ 1枚のワークシートで気付きや考えの変容、全体での確認事項が見えるようにした。また、題材の始めと終わりで個人の日本の伝統芸能に関する考えや向き合い方の変化が見えるようなワークシートを作成した。

- ・ ハイブリッド型での開催に伴うオンライン用の撮影にふさわしい機器の情報収集

★ 試案授業で様々な機器や撮影方法を使ってみて、音声状態、撮影の角度等をチェックし、情報センター、研修センター、業者、オンライン部等と相談しながら、授業として撮影しなければならない部分がより良く撮影できる方法を検討した。

③ プレ授業2（10月）

- ・ 既習事項や生徒の知覚・感受したことが生かされ次の段階につながる板書の整理の仕方についての検討

★ 同じ歌詞の用いられている3つの芸能の音楽が何であるかについて、班で話し合っまとめた結果をタブレットで記録し、全体で共有しようとした。→時間がかかるわりに、タブレットを使用する効果あまり感じられなかった。→生徒の発表内容とそれに関わる教師との対話の内容を板書としてまとめていった。

- ・ 生徒の理解が深まるための班活動の進め方、意見のまとめ方についての検討

★ 「話し合っ意見をまとめて」という単純な指示で話し合いを開始させた。→コロナ禍で班活動の経験が少ない影響もあり、話し合いが活発に行われるまでに時間がかかったり、話し合いの内容が深まっていなかったりする状況が見られた。→話し合いの進め方のマニュアルを作成し、班活動がスムーズに進められるようにした

- ・ ハイブリッド型での開催に伴うオンライン用の撮影に撮影の方法について検討

★ 試案授業で様々な機器や撮影方法を使ってみて、音声状態、撮影の角度等をチェックし、情報センター、研修センター、業者、オンライン部等と相談しながら、授業として撮影しなければならない部分がより良く撮影できる方法を検討した。

本授業における研究の視点

① 「何を学ぶか」の明確化

- 音楽の共通性や固有性を見いだすためのよりどころとする音楽の要素の焦点化について

【よりどころとする要素の選択は効果的であったか】

- ・ひとつの音楽を部分的には表せないが、比較の視点を明確にするために要素を絞ったのはよかった。
- ・まずは、音楽に向き合わせて知覚感受させるのは大切である。

【歌舞伎・能・文楽の特徴を捉えるにふさわしい教材の選択であったか】

- ・映像を観ながらだともっとわかるが、思考を広げすぎないように音楽だけにしたのはよかった。

- めあての実現に向けて課題解決を進めていくことができるための指導過程の工夫について

【題材全体を通して、多くの教材を同じ要素の視点で比較鑑賞を繰り返した活動は効果的であったか】

- ・同じ歌詞で比較するのはよかったが、3つのものを比べるのは難しい気がする。特徴をとらえるのは容易だが、相違点・共通点は見つけにくいのではないか。

【ワークシートは、生徒の学びの振り返りやゴールの見通しの一助となっていたか】

- ・番号の振り分けが、支援の必要な生徒に対しては煩雑ではなかったか。
- ・1枚にまとまっていて、振り返りがしやすく流れがよくわかった。

【話し合いのマニュアルを示したことがめあての実現に向けての支援になっていたか】

- ・めあてに向かって、話し合いがよくできていた。
- ・掲示物が効果的だった。

② 「どのように学ぶか」の工夫

- 学が深まるための教材・教具の扱い方や授業形態の工夫について

【教材の選択・資料・タブレットや分配器等の機器・ワークシート・班活動などは、学びが深まるきっかけづくりになっていたか】

- ・分配器の活用が、班で情報を共有できて有効だった。
- ・タブレットが1人1台ない学校もある。
- ・interactive な活動ができていた。

本授業における研究の視点

① 「何を学ぶか」の明確化

- 音楽の共通性や固有性を見いだすためのよりどころとする音楽の要素の焦点化について
【よりどころとする要素の選択は効果的であったか】

要素が少なかったことがよかった。

要素を焦点化した分、生徒の気づきが増えた。→メモの取り方がスムーズだった。

【歌舞伎・能・文楽の特徴を捉えるにふさわしい教材の選択であったか】

「これやこの～」の同じ詞章部分を使ったので比較しやすかった。

教芸はよいが。

見本の音楽は適切か、それ以上によいものはないか、どの先生も模索しながらやっている。

- めあての実現に向けて課題解決を進めていくことができるための指導過程の工夫について
【題材全体を通して、多くの教材を同じ要素の視点で比較鑑賞を繰り返した活動は効果的であったか】

映像なしで、聴くことに集中できる活動が促されていた。かつワークシートの作りが、前時から通して思い返せる構成になっていたので生徒の考えをつなげ、深め、ひろげる手立てになっていた。

【ワークシートは、生徒の学びの振り返りやゴールの見通しの一助となっていたか】

(上記の通り)

日本の音楽の学ばせ方として時代の流れに沿って、順番に内容を抑えた後、鑑賞して終わり、というパターンもあるがそれを3つの芸能を聴き比べるという形で面白い、と思う。

【話し合いのマニュアルを示したことがめあての実現に向けての支援になっていたか】

語彙や話型を示して考えを深めたことで発表もスムーズに行えたのかと思うが、時と教材によっては、話型を示さず豊かな感性の言葉を生徒から引き出す時も必要である。

② 「どのように学ぶか」の工夫

- 学が深まるための教材・教具の扱い方や授業形態の工夫について

【教材の選択・資料・タブレットや分配器等の機器・ワークシート・班活動などは、学びが深まるきっかけづくりになっていたか】

グループ活動においてのメンバーは意図的に酒井先生の授業では行っていたが、先生方それぞれ学校の実情を受けてグループを意図的に作ったり全く意図せずグルーピングしたりそれぞれである。深める場面や広げるには話し合いのリードをとる人物も必要か、と思う。自分の学校と生徒自身を比較しても仕方ないが、話し合いをリードする人が半数以上いたから班活動も深まっていったかと思う。分配器の使用が有効であった。

2 本授業における研究の視点

① 「何を学ぶか」の明確化

- 音楽の共通性や固有性を見いだすためのよりどころとする音楽の要素の焦点化について

【よりどころとする要素の選択は効果的であったか】

○生徒は音色、旋律の違いをよく聴き取っていた。効果的だった。

○わかりやすい要素の選択。ただし、生徒の経験値による。今回の授業ではよく聴き取っていたことに驚いた。

○2年生であり、初めての日本音楽ということ。また、評価の視点からもこの2つでよかった。生徒はよく聴き取れていたと思う。

※「根拠」という言葉が多かった。もっとわかりやすい、「なぜ、そうなるの?」というような柔らかい言葉かけをした方が子供たちにも響くのではないかという感想。

【歌舞伎・能・文楽の特徴を捉えるにふさわしい教材の選択であったか】

※歌舞伎の音源には、拍手が入っていたが、意図があったのか?

A. 意図はなかった。教科書についていた音源を活用しました。

○同じ台詞の部分を使用していた。その後、「これぞ」みたいな音源を3つ聴かせた。

最初から「これぞ」というものでよかったのではないかと。生徒は、歌い方、抑揚、空気感、楽器の音色など、多くを聴き取る力があつたと思う。

※自分でも授業してみてもふさわしい教材の選択であったかという検討の余地があると思う。

- めあての実現に向けて課題解決を進めていくことができるための指導過程の工夫について

【題材全体を通して、多くの教材を同じ要素の視点で比較鑑賞を繰り返した活動は効果的であったか】

○よかった。くり返し聴くことで新たな発見があつたと思う。

○ICTの活用が効果的だった。分配器がとてもよかった。同じメンバーが同じ部分を聴ける。

○ICTの活用が効果的。班で意見を共有したあとに、その部分を「もう一度聴いてみよう」という活動がスムーズに行えていた。聴いている最中の生徒同士の会話にも確認や気づきの言葉が聞こえていた。

※時間の都合上、以下の内容で進行。

- その後はどうなりましたか。

3時 共通点、相違点の確認

4時 歴史的なことの確認。「日本人としてももう少し伝統音楽にかかわりたい」という意見も聞いた。

- 授業を見ての感想

・要素について聴き取る授業も大切だけれども、「もっと聴いてみたい」「日本の音楽もいいな」という感想がでる授業がしたいと考えている。

・一つ一つを取り上げて行く授業をしている。深くなりすぎて、興味が離れていく生徒もいる。今回のような授業のよさを感じました。

- 副島先生のお話

・比較した方法はよかった。ただ、3つの音楽を比較するのは、生徒にとっては難しいのではないかと。

・1つきちんと学習してから、他のものと比較するとかはどうか。また、まず2つを比較して次の1つを比較するという方法もある。生徒の能力に合わせて選択するのもよいのではないかと。

2 本授業における研究の視点

① 「何を学ぶか」の明確化

- 音楽の共通性や固有性を見いだすためのよりどころとする音楽の要素の焦点化について

【よりどころとする要素の選択は効果的であったか】

【歌舞伎・能・文楽の特徴を捉えるにふさわしい教材の選択であったか】

時間の都合上、協議なし

- めあての実現に向けて課題解決を進めていくことができるための指導過程の工夫について

【題材全体を通して、多くの教材を同じ要素の視点で比較鑑賞を繰り返した活動は効果的であったか】

Q. 1時間目に、歌舞伎・能・文楽を鑑賞して、それぞれ知覚感受しながら特徴をとらえるということだが、それぞれの特徴をしっかりとおさえるところは指導計画では3時間目にされるのかと思ったが、そのところがぼんやりしたままで本時をみさせていただいた。そのあたりの実際と意図は。

A. 1時間目は、A,B,Cの雰囲気をおさえただけでそれぞれの芸能の確認まではしていない。個人で聴いたり、グループで聴いたりしたので1時間かかってしまった。A,B,Cの特徴が分かったところまで。2時間目は実際に歌舞伎、能、文楽はこれですよというのを聴いて、A,B,Cと歌舞伎、能、文楽それぞれの特徴を結び付けて考えさせたいという意図があって、このような題材の流れにしています。それを整理したのが第3次ということになります。

Q. 1, 2時間目を経て、3時間目では生徒の中で歌舞伎というものはこういうものなのだというとらえがどの程度の生徒がどんな形でできたのか。

A. 第2時で予想を立てて、第3時でA,B,Cがどの芸能かという確認をしていくのだが、結構当たってなかったのが、なぜ違ったのだろうともう一回聴きながら、映像を見せながら、最終的にそれぞれの特徴のまとめをした。映像を見せての確認が第3時。そこで違いや共通点が見えてきたので、第4時でさらに歴史の話をして、能はずっと守られてきているとか、歌舞伎は途中盛り上がり下がりするとか、文楽や能を真似したりしているということ話をしたりして最終的に終わっていくという感じ。

・教芸では、この3年生から能が2・3下の教科書になっていたのが、これからどうしようかと思っていたところで、2年生で能を学習するということが「なるほどな」と思って非常に参考になりました。能は取り扱いがすごく難しいと思うので、歌舞伎の学習のところで能を比較して学習することで関連性がより分かりやすくなるのだろうと思った。3時間目の授業で、もっと生徒の予想があたってとらえられるのかと思っていたが、意外と当たってなかったということで、その辺りの提示の仕方が自分だったらどうするかと思いついてみさせてもらったので、また、今後実践に生かしていきたいと思いました。ありがとうございました。

【ワークシートは、生徒の学びの振り返りやゴールの見通しの一助となっていたか】

・ワークシート・・・授業の流れが分かりやすく作られていて、生徒も、今どこをやっているのか、次はということをするとということが分かりやすくてよかったのではないかと思います。

【話し合いのマニュアルを示したことがめあての実現に向けての支援になっていたか】

・話し合いのマニュアルがあると、なんて書けばよいか分からない子供たちも、どういう風に書けばよいかとか、どういう視点で書けばよいか分かって分かりやすかったのではないかと考えた。

② 「どのように学ぶか」の工夫

○ 学が深まるための教材・教具の扱い方や授業形態の工夫について

【教材の選択・資料・タブレットや分配器等の機器・ワークシート・班活動などは、学びが深まるきっかけづくりになっていたか】

・分配器が活用できると思った。鑑賞で、個人での学習のできるが、みんなで確認しながら学ぶことができるのでとてもいいと思った。活動が生きるし、みんなで学習ができる。

・班の作りも男女混合で、楽しそうに活動していたり、意見が押されたりしていたところもあったりしたけれど、もう一回聴こうとって、話し合いが活発に行われていて、みんなで学ぼうとしているところに分配器の効果があったと思った。

・教材の選択については、教芸に同じ場面を扱っているものがあるということで、教出にはないので、教材も比較できるのがとてもよかった。難しいと思ったが、このあと映像を見せたりして比較できるのがいいと思った。比較することは参考にさせてもらいたい。

・ワークシートもきちんと整理されていて、よく活用されていたと思った。

・分配器がとてもいいと思った。ラジカセで聴くのと違う良さがあって、子供たちも集中して聴けていたのでもいいと思った。

・分配器は、子供たちが集中できるとか協力してできるとかいうことを実際感じて、これはいいものだと思っている。

・都城市はタブレットを音楽の授業でどのように使えるかを日々模索している。音楽を再生したり、聴いたりすることはできるが、共同編集をするという形を授業の中で使っていて、都城市はクロムブックという Google のアプリを使って、例えばジャムボードを使ってホワイトボードの代わりに同時編集しながら意見をまとめていくとかいうことをやっている。やりながら、紙ベースで書いた方が早いのにと思うところがあったり、タブレットを使った方が効率のいいこともあったりして、使用事例とかをみんなで共有できると幅が広がっていくのかなど。全国でも端末一人一台とかやっているの、そういったことも音研の方で今後していただけたらいいかなと思ったところだった。ワークシートをきちんと作られて紙ベースでされていたので、これをタブレットにおきかえたらどうかとか個人的に色々考えながら見させてもらった。

・鹿児島では、タブレットの活用は、一人に配置されていると言っているが、実情は本校は2、3年生には配置されているが、1年生には全て同じ機材がそろっているという状況ではなく、なかなか活用ができない部分がある。2・3年生については少しずつ教科で活用が始まっているが、音楽の授業でタブレットの活用というと、私は創作の授業で少し使う程度で、書いた方が早かったり、立ち上げた時点でトラブルが発生したりとかいうのが常なので、余り実際活用できていない状況があるのだが、いろんな授業を見させていただいて、使われている方はすごく使われていて、附属中などは Google クロムの方を活用されて授業している学校もあるようだが、鹿児島県の色んな研究会で話になるのが、一緒に音楽を共有する場面だけれど、タ

タブレットに向かって作業しているという時間の方が長くなるのはいかがなものなのだろうかということが話題として出ている。来年度の九州大会に向けて、少しずつ話し合いが進んでいるのだけれど、そういったところで、ICTの活用というところは大きなテーマではあるが、音楽の中でタブレットがメインにならないようにということは係の方では話をしているところです。子供たちのタブレットのスキルがもっとあがって、スムーズに使いこなせて、環境も整ってという形でないと、なかなか週1の音楽の時間に気軽に使っていくのは難しいなと私自信は感じているところです。

・都城市では、一斉にタブレット活用しようということで、ステップが設定されていて、今ステップ0から何段階かあって、今、3段階くらいまで、共同編集ができるというところまで今年度中にいきましょうということをやっている。子供たちを見ていると、スタートが一昨年で、中1の生徒は小学校から始めていて、中1のスタートの段階としては高いスキルをもって入学してきていると感じている。なので、ジャムボードを扱うよとかいうことは、本校は昨年度からやり始めたのだが、そこで生徒たちは覚えていったことを他の教科で使わせてもらっている感じがある。確かに、研究授業とかでやるとかなりロスの時間があって、校内研究でみんなですながら、紙が早いよねとかいいながらだけれど、トラブって授業時間内に終わらなかったということが多。教科で使い方を教えることは特になく、自分は技術ももっているの、技術科の中で基本的なことはやっている。(ワード・エクセル・パワーポイントなど)

・本校でも使っていて、他教科でも使っているが、最終的には個に返して自分で考えないといけないので、グループで話し合ったとしても、全体でジャムボードにまとめたり、全体で意見や考えを共有したりしながら、最終的には自分にかえす。書くこともとても大事だと思うので、そればかりには頼れないと思うと、両方を上手く使えるようにとも思うが、いろんな人の意見が見られるという意味では、ワークシートだと見られないが、ジャムボードとかで、タブレットで投影すれば、こんな意見が出たのだなというのでは、この間の授業でもできるのかなと思った。

・使う場面を上手く分けていかないといけないと日々感じている。実際に、ジャムボードとかを使用してみんなで意見を共有するというのもやってみたが、その後、子供たちが最終的なゴールを考えて使用していかないと、ただ使うことがゴールになるような気がして、そこをこれから考えて使っていくことが必要だと感じている。

2 本授業における研究の視点

① 「何を学ぶか」の明確化

- 音楽の共通性や固有性を見いだすためのよりどころとする音楽の要素の焦点化について
【よりどころとする要素の選択は効果的であったか】

・聴くことに前向きになれない生徒も多いが、要素を絞るという点では、音色と旋律に焦点化したことが良かった。

【歌舞伎・能・文楽の特徴を捉えるにふさわしい教材の選択であったか】

・スタートからの変容が見られたとのことで、教材の選択も、それぞれの特徴を捉えるのに、生徒が、最終的に判断がついた、興味を持ったということは、ふさわしい教材であったということだと思う。

- めあての実現に向けて課題解決を進めていくことができるための指導過程の工夫について
【題材全体を通して、多くの教材を同じ要素の視点で比較鑑賞を繰り返した活動は効果的であったか】

・比較鑑賞はとても有効だと思うが、どうしても時間がかかるので、時間配分が難しそうだった。子どもたちが自分なりの答えを出そうとするときに、3曲は多いと感じた。
・何か比べるものがあるのは、互いの違いを捉えることに効果的だった。楽器や旋律の流れ、声の音色などを聴き取る力はあると思う。ただ、比較鑑賞となるものを見つけるのがなかなか難しいのではないかな。
・比較鑑賞曲をたくさんの曲の中から選んでいくのは大変だと思うが、今回、どのように選んだのか。
・今回の比較鑑賞曲は、子どもたちにとって分かりやすいものだったと思う。

【ワークシートは、生徒の学びの振り返りやゴールの見通しの一助になっていたか】

・1枚にまとめてあったことで、子どもたちも、前時に学習したことを自分の中で振り返りながら本時の授業につなげていくことができていることは、非常に有効だったと思う。
・教師側も生徒の変容が見えてきて、とても良いワークシートだったと思う。
・週に一度の授業なので、前時にやった内容を忘れていく子どもが多い中、ワークシートを1枚で前の内容を振り返ることができるのはとても有効だと思う。参考にさせてもらう。

【話し合いのマニュアルを示したことがめあての実現に向けての支援になっていたか】

・予想の立て方、班活動においては、マニュアルがあると、話し合いが苦手な子や文章表現が苦手な子たちにとって、目当ての実現に向けて考えようとする気持ちが高まると思う。
・日頃の実践から、まとめ方（音楽の要素が〇〇だったので、このように感じた）のマニュアルを参考にしている。そのことによって、書けなかった子たちが書こうという意図を示すようになった。繰り返し行うことで、少しずつ自分の言葉で書くことができるようになってきているように思う。

② 「どのように学ぶか」の工夫

○ 学びが深まるための教材・教具の扱い方や授業形態の工夫について

【教材の選択・資料・タブレットや分配器等の機器・ワークシート・班活動などは、学びが深まるきっかけづくりになっていたか】

- ・個人のタブレットに送った音源については、タイトル名が表示されており、生徒自身が、今何を聴いているのかを把握できて良かった。
- ・自分の聴きたいところを、自分のペースで何度も繰り返し聴くことができるので良い。
- ・今回、分配器を使用しましたが、班の活動の中で、同じ音源を聴きながら意見を言い合い、考えを深めていくことができるので、その部分だけ一斉に、一緒に聴くことができるのがとても良かった。

※ 授業者への質問

- ・生徒の変容は見られたのか。(知覚から特徴を捉えるまで)
 - 知覚感受の際は、ほとんどの生徒が知らない、興味がないところからスタート。最終的には、日本の伝統をもっと知りたい、少し興味をもった、だんだん理解が深まった、という変容が見られた。
- ・「当てることが目的ではない」という教師の発言から、実際ゲーム感覚で取り組んだ生徒はいたのか。
 - 「聴いて感じることが大事」と言っていたので、ゲーム感覚で取り組んだ生徒はいない。第4時で歴史との関わりを学習した際に学びが深まったと思う。

※ 日頃実践されていること

- ・子どもたちのワークシートは、音楽室に、学年ごとに掲示している。立ち止まって見ている生徒もおり、書き方を参考にしている姿が見られる。
- ・ワークシートに記入した後、書いている生徒を意図的に指名することは多い。
- ・生徒の発表を板書し、書けていない生徒はそれを写すことから始める。それを何度も繰り返すことで、少しずつ書けるようになる生徒は多い。日頃の訓練が大事。
- ・自分の意見はえんぴつで、それ以外は色を変えて書かせることで、他の意見の良いところを知り、語彙力も増え、次につながっていくと思う。
- ・ICTの活用について、音楽の授業の中で、どこで使うのが大事になってくる。音楽を聴かせる時に、イヤホンや分配器を使用すると、生徒が今何を聴いているのかを教師が把握できない場合があるので、敢えてイヤホンや分配器を使用せずに、一斉に聴かせることもある。
- ・コロナ禍で歌えない時期があった時に、マイクを使用して、自分の声を録音させたことがある。
- ・実技のテストの時は、自分の声を録音させ、教師の提出箱に提出させている。
- ・ガレージバンドを利用して作曲をさせている。たくさんの楽器があるので、生徒も興味をもって取り組んでいる。県内の地域によって違ったアプリケーションを用いているので、県内で統一したものがあつたら良いと思う。

中学校 B 鑑賞 指導助言

【指導助言者 佐賀市立金立小学校 校長 副島 和久】

音楽科における「思考」の一番のポイントは、自らの感性を働かせて対象となる音楽を知覚・感受し、知覚したことと感受したこととの関わりを考えること。その上で、鑑賞であれば、その音楽のよさや美しさを味わう、表現であれば、音楽表現を工夫して歌う（演奏する・つくる）ということになる。このことが音楽科における思考力として、最も大切なところである。

今回の酒井先生の授業提案における素晴らしいと思った点は3点ある。

1点目は、歌舞伎の長唄、能楽の謡曲、文楽の義太夫節を一度に学ぶという題材構成である。とても挑戦的で、提案性のある授業だったと思う。一つずつ取り扱うのも難しい教材を、3つまとめて取り上げるというのは非常にチャレンジングであると思った。今大会での提案を踏まえて、ブラッシュアップされ、さらによい授業になるとよいと思う。

2点目は、「比較聴取」という手立てである。「比較する」ということは音楽に限らず、生徒が思考するときの基本として大切なことである。「Aの特徴は何か？」と問われてもなかなかピンとこないが、AとBを比べながら特徴を考えていくと非常に分かりやすい。そういった意味で、「比較聴取」という手立てを取りながら、これらの音楽表現の固有性と共通性を考えていく今回の授業提案はとても参考になった。

3点目は、生徒が感性を働かせながら音楽と向き合うことができるようにして、生徒が様々な音楽を知覚・感受し、そのことを伝え合うことで、自分自身の聴き取り・感じ取りの質を深めていけるような仕掛けが工夫されていたことである。歌舞伎とか文楽、能などの学習では、ついつい映像を見せなくなる。最終的には見せてよいと思うし、見た方がよいと思うが、最初から映像を見せると情報量が多く、例えば、衣装のことや舞台のことなど、生徒は音楽以外のいろいろなことに気付く。それ自体は悪いことではないが、音楽の授業としてねらっていることから離れていく場合も多い。まずは長唄や義太夫節、謡曲といった音楽にきちんと向き合わせてその特徴を捉えさせることが大切である。次に、(例えば、歌舞伎や文楽、能楽という芸術の中で)それらの音楽がどのように生かされているのかということを考えさせる上でも、やはり音楽の授業では、まず生徒が音楽としっかり向き合い、知覚・感受したことを伝え合い、深めていけるような学習の進め方がとても大事であると思う。

素晴らしいと思った点は以上の3点であるが、付け加えるとすれば、授業における生徒の姿である。生徒が教材となる音楽と真摯に向き合っている授業だと思った。個人的には、本題材の3時目や4時目を見たかった。本時の学習を踏まえて、生徒たちがどのように思考を深めていくのかを見てみたかった。

次に、酒井先生の授業についてのアドバイスとして、もし、自分が授業を行うとしたら、このような点を見直していくと更によくなると思ったことを4点述べる。

1点目は、「知覚したことと感受したことの関わりについて考える」ということについて、さらに手立てを講じると、生徒の知覚・感受の質がもっと深まるということである。例えば、ワークシートには、「感じたこと」を記述する欄と、「聴き取ったこと」を記述する欄があったが、それら2つが生徒の中でつながっていたかどうか。「〇〇に感じたのは声が△△だったから」とか、「□□のようににぎやかな感じがしたのは楽器が◇◇だったから」といったように、生徒が感じたことと聴き取ったこととを関連付けながら考えられるようにワークシートを工夫し、同様の視点での教師の問いかけなどがあるとさらによかったと思う。

2点目は、自分の経験上からも、3つの音楽を同時に比較聴取するのは難しい活動ではないかということである。比較聴取という方法自体はとても有効であるので、さらによいものとするために考えてほしいと思う。3つの音楽の比較聴取において、3つの共通点については捉えやすいけれども、相違点については、「AとBとは同じだけどCとは違う」とか、「AとBとCは全て違う」など、様々なパターンが考えられるため、生徒にとっては難しい思考になると思う。その時に、例えば、最初に長唄と義太夫節を比較し、そこで捉えた特徴を踏まえて、謡曲の特徴について考えるとか、最初に長唄の特徴を捉え、そこでの学習を生かして、義太夫節と謡曲の比較聴取を行うなど、段階的に3つの音楽を比較聴取していくようなことも考えられると思う。国研の『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』第3編の事例3なども、3つの音楽を比較する手立てが工夫されているので参考にしてほしい。

3点目は、生徒が一つ一つの活動について、もっと必然性を感じることができるようになると、さらに主体的・対話的な学びになっていくのではないかということである。若干、授業の流れが、決められた手順を踏んで作業をしていくような感じに思えた。授業における「わくわく感」とかがもっと演出できるとよいのではないかと思った。授業づくりの方法として、「プログラミング」と「デザイン」という発想があるとするならば、あらかじめプログラミングされた内容を、教師が一方的に手順を踏んで進めていくような授業ではなく、生徒とのやり取りの中で、生徒の反応なども見ながら、もっと双方向的に授業を展開していくようなことがあってもよいのではないか。また、「生徒の心が動く瞬間」を大切にしたい。つまり、生徒が音楽を聴いて、「何かこの音楽について伝えたい」とか、「この音楽を友達がどのように感じたかのかをぜひ聞きたい」といったような気持ちになったときに、適切にグループ活動が位置付けられていると、恐らく生徒たちは、自ら進んで対話的な学びを深めていくのではないかと思う。授業の中に、生徒の意欲を喚起できるような場面がもっとあると、さらに生徒の主体性が喚起され、対話的な学びの質が高まり、より深い学びへとなっていったのではないかと思う。

4点目は、一斉指導の中で「対話的な学び」を実現する教師の存在についてである。対話的な学びを実現し、生徒を深い学びに誘うことができるよう、教師は自らの力量を磨いていくことが大切である。ペア活動やグループ活動で、生徒に対話的な学びを求める前に、まずは一斉指導の中で、教師が、目の前の生徒との双方向的なやり取りを通して、対話的な学びを実現できる存在になればいい。そうした力量を我々教師はしっかりと身に付けていかなければいけないと思う。今回の授業では、時間的な制約もあり、最後に3人の生徒が発表して終わったが、できれば、生徒が発表したことを教師とのやり取りの中でさらに深めたり、そのことについて、他の生徒がどう思っているかを挙手させて尋ねたりするなどして、深めたり広げたりすることができるように思ったと思う。授業はどうしてもLiveなので、そのときに生徒が発言したことを捉えてどう返していくのかということ瞬間に判断する力が教師には求められる。生徒の発言をどのように理解してどのようによりよい方向に導いていくのかが大切である。ぜひ、研究授業だけでなく、日々の我々の授業を、毎日少しずつ見直すようなことができればよいと思う。私はこのことを「普通の授業の不断の見直し」と呼んでいる。

最後に、音楽科の授業を構想するうえで大切なことを3点お伝えする。

①その題材で、生徒に身に付けさせたい音楽の学力を明確にする。

(3観点に沿って、題材の具体のレベルで考えること)

② その学力が身に付くように「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図る。

(音楽科における見方・考え方を働かせるような授業づくりを行うこと)

③ その力が本当に身に付いたかどうかを評価し、指導等に生かす。

(「指導と評価の一体化」を具現化し、指導改善、学習改善に生きる評価となるようにすること)